

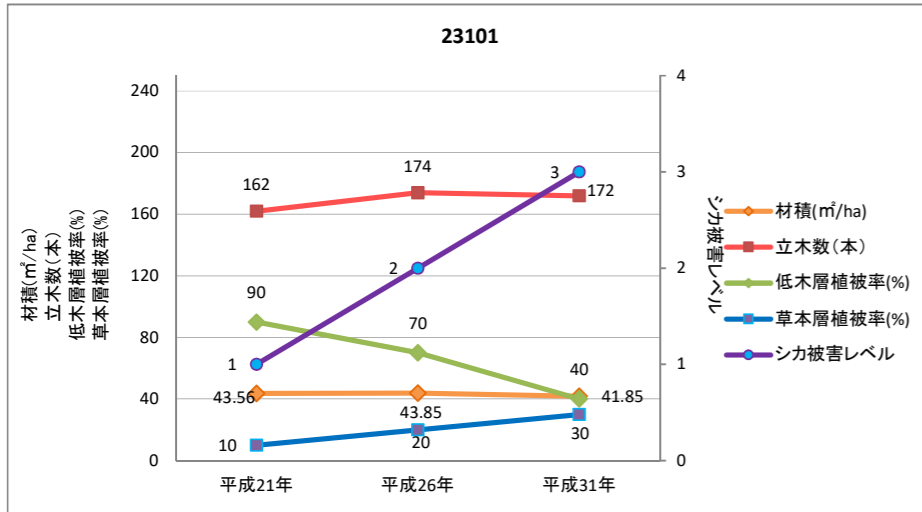
平成31年度保護林モニタリング調査結果 (図表)

No.	対象保護林名	頁番号
①	霧島山生物群集保護林	1
②	立花山クスノキ遺伝資源希少個体群保護林	4
③	音滝山アカマツ等希少個体群保護林	5
④	御岳ツシマヤマネコ希少個体群保護林	6
⑤	北向山スギ等遺伝資源希少個体群保護林	7
⑥	市房モミ等希少個体群保護林	8
⑦	市房ツガ等遺伝資源希少個体群保護林	9
⑧	市房ゴイシツバメシジミ希少個体群保護林	10
⑨	兵戸山モミ等遺伝資源希少個体群保護林	11
⑩	大石榿山アカガシ等希少個体群保護林	12
⑪	榿葉アカマツ等遺伝資源希少個体群保護林	13
⑫	尾鈴アカマツ等遺伝資源希少個体群保護林	14
⑬	尾鈴コウヤマキ希少個体群保護林	15
⑭	八久保イチイガシ遺伝資源希少個体群保護林	16
⑮	蜷尻ツブラジイ等遺伝資源希少個体群保護林	17
⑯	川添タブノキ等遺伝資源希少個体群保護林	18
⑰	面縄リュウキュウマツ遺伝資源希少個体群保護林	19
⑱	種子島ヤクタネゴヨウ等希少個体群保護林	20
⑲	早稲田川ヤクタネゴヨウ希少個体群保護林	21
⑳	瀬切川ヤクタネゴヨウ希少個体群保護林	22

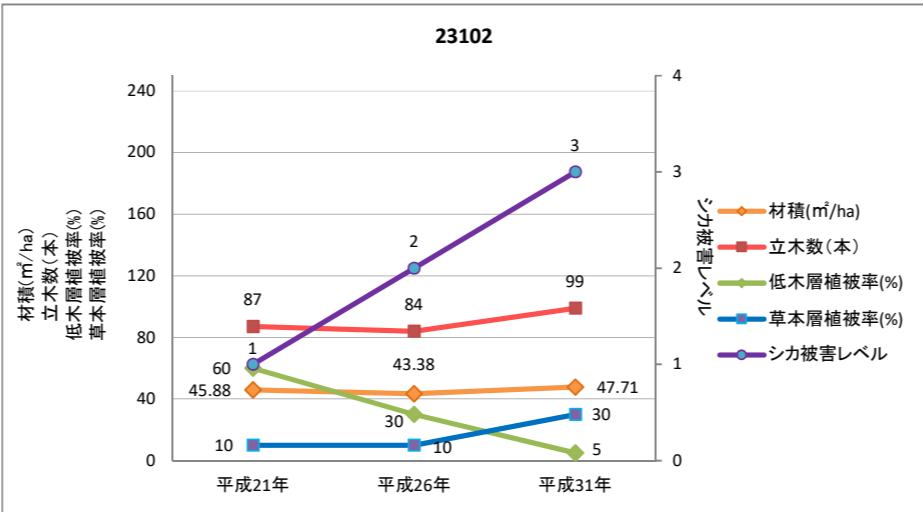
①霧島山生物群集保護林(1)

：平成31年度における20101～20103の植被率は植生調査区(NSEW区)の平均値。平成21年度、平成26年度、平成31年度の23104～23202は小円部における植被率。

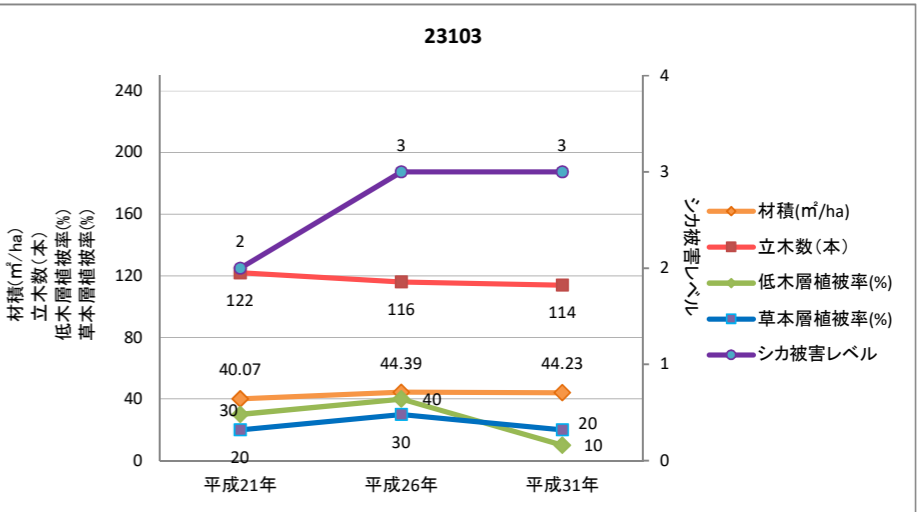
プロットNo.	23101			23102			23103			23104			23105			23106		
	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	43.56	43.85	41.85	45.88	43.38	47.71	40.07	44.39	44.23	40.47	34.58	47.07	47.22	44.10	42.69	11.77	16.44	23.47
立木数(本)	162	174	172	87	84	99	122	116	114	59	55	60	112	102	94	129	148	209
低木層植被率(%)	90	70	40	60	30	5	30	40	10	80	60	70	70	30	40	30	60	90
草本層植被率(%)	10	20	30	10	10	30	20	30	20	20	10	10	90	50	50	100	60	5
シカ被害レベル	1	2	3	1	2	3	2	3	3	1	4	3	1	2	3	1	2	3
低木層種数	6	13	2	4	5	2	6	6	1	19	4	8	3	2	2	3	7	5
草本層種数	12	7	6	6	6	4	11	11	7	0	11	14	14	13	12	15	11	13
低木層優占種	ハイノキ	ハイノキ シキミ	ハイノキ	スズタケ	ハイノキ	シキミ ハイノキ	ハイノキ、シキ ミ キガンピ、スズ	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ	スズタケ	タンナサワフタ ギ	タンナサワフタ ギ	ミヤマキリシマ	ネジキ	ネジキ
草本層優占種		ハイノキ	ハイノキ	なし	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ	なし	ハイノキ コミヤマスマシ	ハイノキ	ミヤマキリシマ	スズタケ ミヤマキリシマ	ミヤマキリシマ スゲ属	スズタケ	スズタケ ミヤマキリシマ	マイヅルソウ ミヤマキリシマ



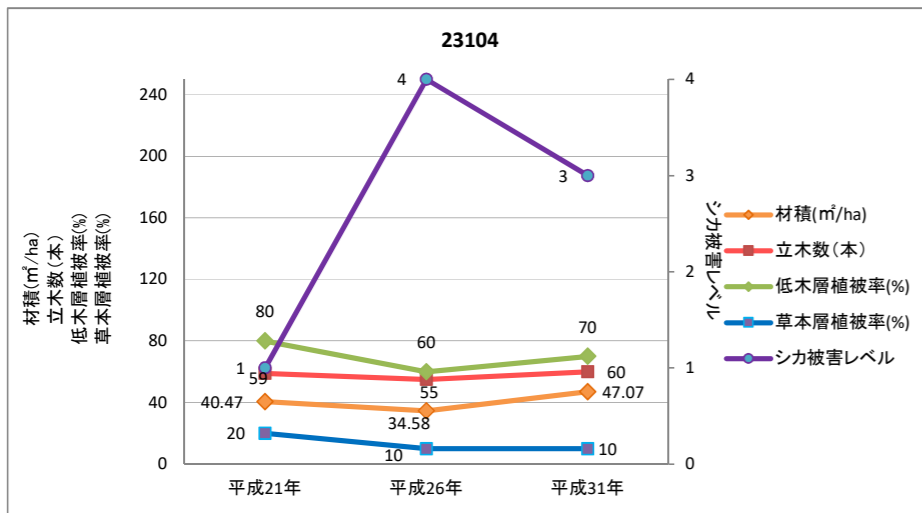
高木層の枯損は大径木のモミ等5本確認されたが、材積・本数ともにほとんど変化はなく健全である。低木層はハイノキが優占し、林内の見通しは悪い。草本層はシカの忌避植物であるハイノキやシキミなどが高い被度で生育している。



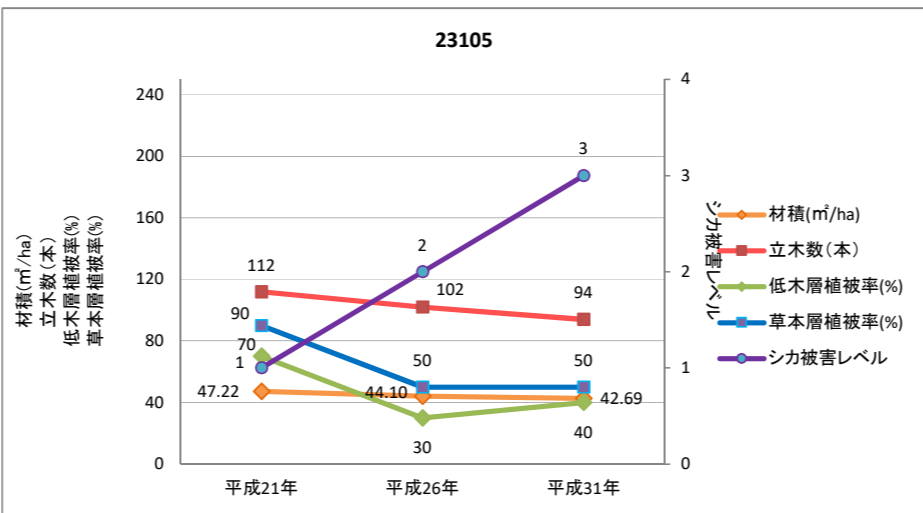
高木層に枯損や倒伏はなく、健全である。低木層はシカの忌避植物であるシキミやハイノキが生育し、スズタケは開花により枯死して枯死稈が残る程度で、林内の見通しは良い。草本層は、シカの忌避植物であるハイノキやが高い被度で生育している。



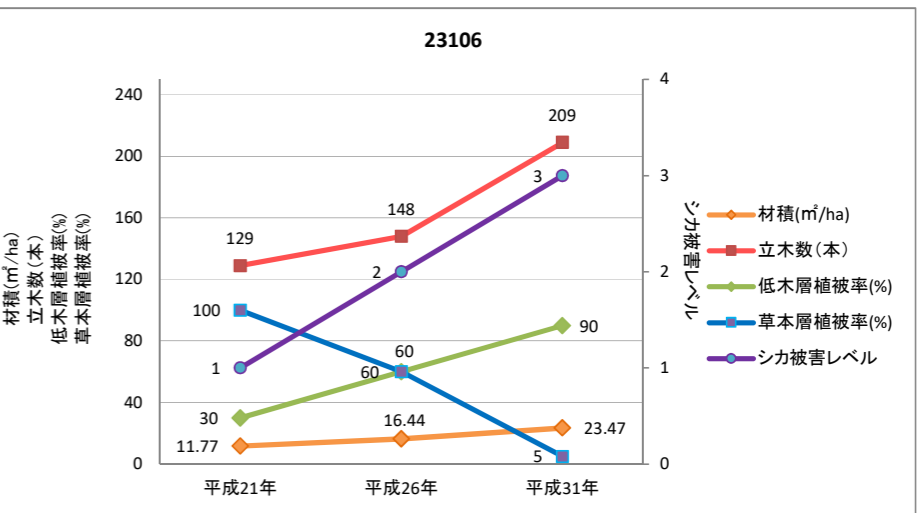
高木層では、アカマツや樹種不明の枯損が確認されたが、材積・本数ともにほとんど変化はなく健全である。低木層はハイノキが生育する程度で、林内の見通しはよい。草本層の植被率の高い環境下には、シカの忌避植物であるハイノキが優占している。なお、高木層の枯損は、火山性ガスによる可能性が高い。



高木層では大径木のブナが1本枯れていた他に枯損はなく、健全である。低木層はハイノキが生育する程度で、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



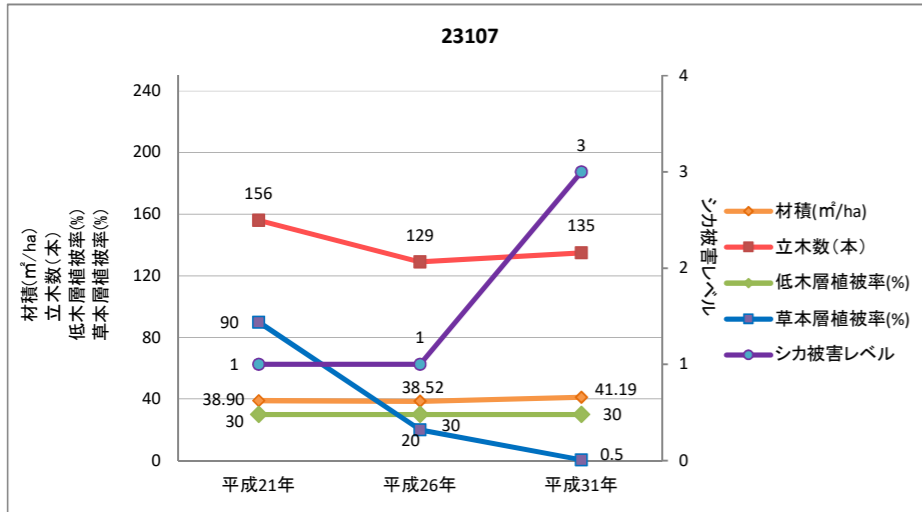
・高木層では、火山性ガスの影響と思われるアカマツの枯損が6本確認された。低木層はタンナサワフタギが優占し、林内の見通しはよい。草本層はミヤマキリシマやスゲ属が密生している場所もあり、植被率は高い。また、スズタケは開花により枯死しており、枯死稈のみが残る程度にまで衰退している。



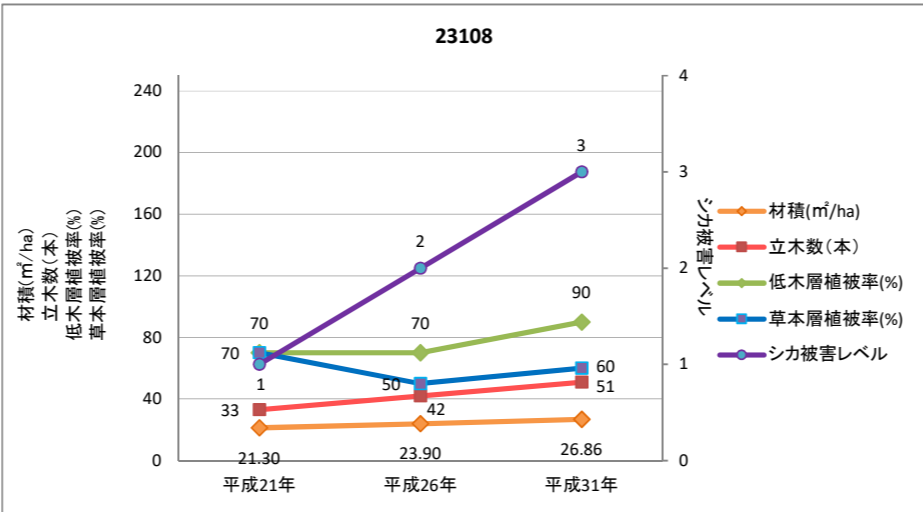
高木層に枯損や倒伏はなく、健全である。低木層はネジキが繁茂しており、林内の見通しは悪い。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。また、スズタケは開花により枯死しており、枯死稈のみが残る程度にまで衰退している。

①霧島山生物群集保護林(2)

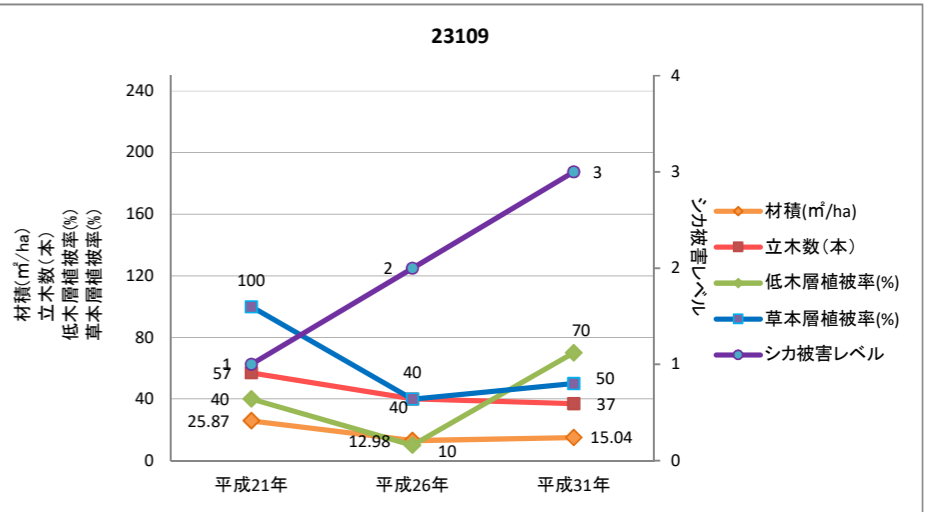
プロットNo.	23107			23108			23109			23110			23111			23112		
	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	38.90	38.52	41.19	21.30	23.90	26.86	25.87	12.98	15.04	14.08	12.37	14.99	51.49	55.11	58.86	67.85	65.82	62.11
立木数(本)	156	129	135	33	42	51	57	40	37	61	56	62	71	68	66	88	78	67
低木層植被率(%)	30	30	30	70	70	90	40	10	70	80	30	30	20	20	10	20	50	0
草本層植被率(%)	90	20	0.5	70	50	60	100	40	50	100	90	95	10	10	1	0	2	0.1
シカ被害レベル	1	1	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	4	3	1	2	3
低木層種数	5	3	2	14	9	4	6	3	4	2	3	3	8	4	3	4	5	0
草本層種数	1	9	6	19	12	9	14	6	10	27	11	12	2	13	8	3	4	9
低木層優占種	スズタケ	ヤマツツジ タンナサワフタギ	ヤマツツジ タンナサワフタギ	コガクウツギ	タンナサワフタギ、エゴノキ、 ナツツバキ	ナツツバキ	ミヤマキリシマ	タンナサワフタギ	タンナサワフタギ コガクウツギ	ヤマアジサイ	タンナサワフタギ コバノクロヅル	タンナサワフタギ ヤマアジサイ	コガクウツギ	ヤブツバキ、シキミ、 ネズミモチ、イヌガシ	シキミ	なし	ヒサカキ、ホソ バタブ、ヤブツ バキ	
草本層優占種	スズタケ	スズタケ	なし	なし	コガクウツギ	コガクウツギ	なし	タンナサワフタギ	ナガバモミジイ チゴ	ヤマアジサイ	ヤマアジサイ	ヤマアジサイ	シンガシラ	なし	なし	なし	なし	なし



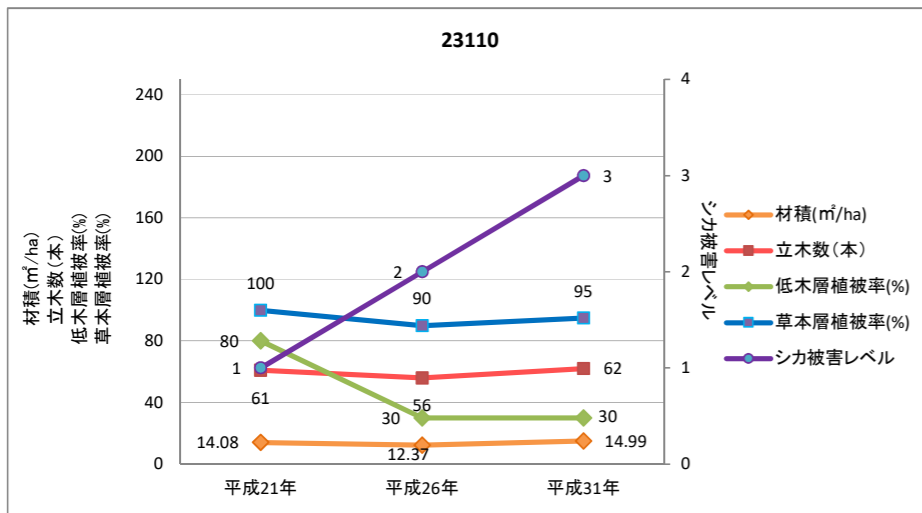
高木層に枯損や倒伏はなく、健全である。ただし、亜高木層を形成する胸高直径10cm前後のミズナラの枯損が10本以上確認され、健全性を欠きつつある。低木層は小径木のタンナサワフタギとヤマツツジが優占する程度で、林内の見通しは良い。スズタケは開花枯死しており、ほとんどが枯死稈のみとなっているため、草本層の植被率が大幅に減少している。なお、僅かに矮小化した個体も確認された。



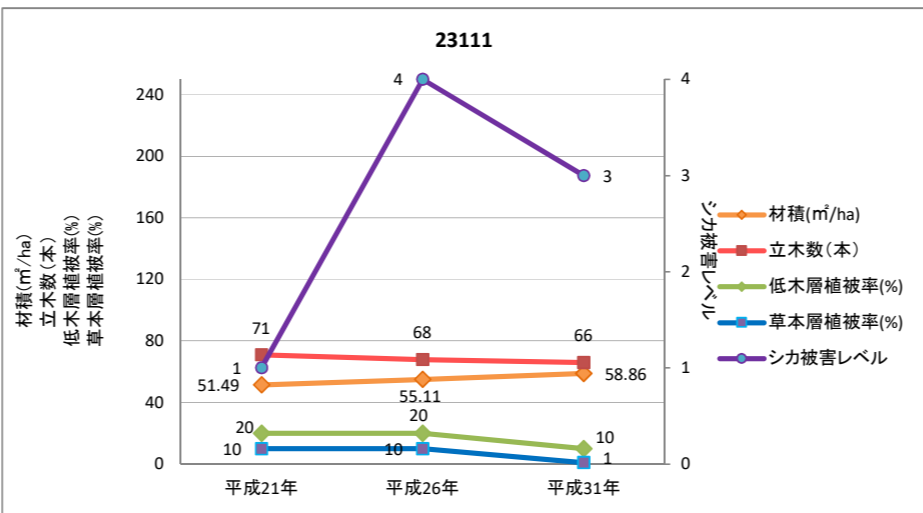
高木層では、大径木のハリギリとカナクキノキの枯損が確認され、やや健全性を欠きつつある。低木層はシカの忌避植物であるコガクウツギが密生し、林内の見通しは悪い。草本層もコガクウツギが高い被度で生育している。



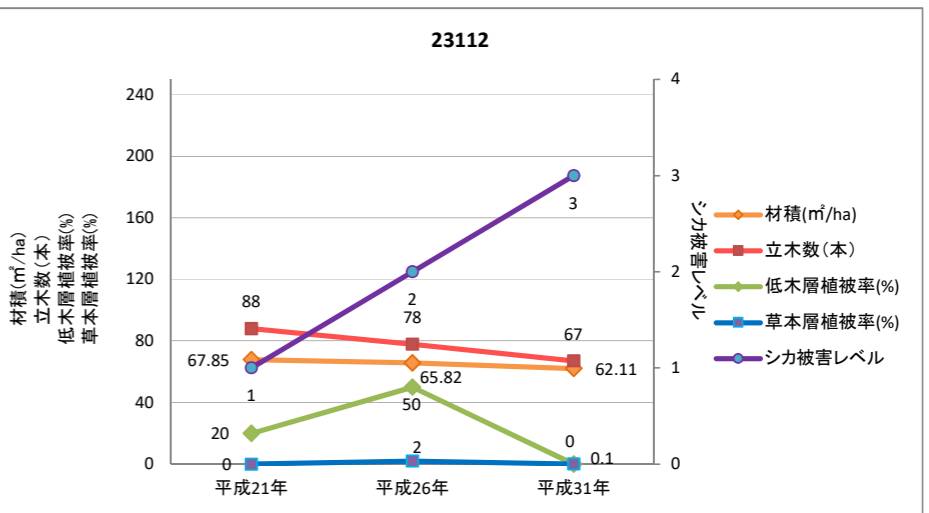
高木層では、火山性ガスの影響と思われるアカマツの枯損が7本の他、ミズナラやアカシデ等の枯損が確認された。低木層は、タンナサワフタギとコガクウツギなどシカの忌避植物が生育し、林内の見通しは悪い。草本層は、シカの忌避植物であるミヤマキリシマやコガクウツギなどが高い被度で生育している。



高木層に枯損や倒伏はなく、健全である。低木層は主にタンナサワフタギとヤマアジサイが生育し、特に2m以下の林内の見通しは悪い。草本層はヤマアジサイが林床を覆うほど密生し、植被率は高い。なお、林床には火山砕屑物の一種である軽石が堆積しており、火山性土壌となっている。



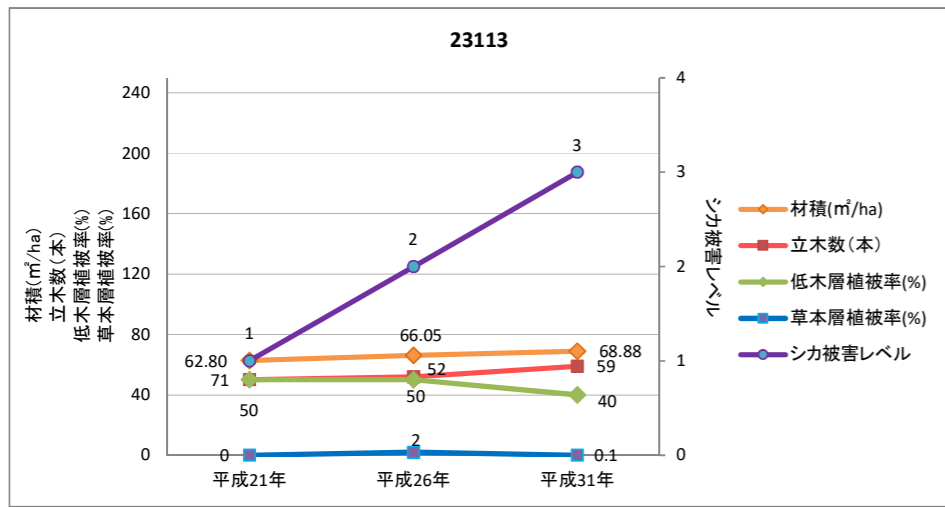
高木層では、2018年の台風24号による風害で、モミの枯損が2本、樹種不明の枯損が2本確認された。同じく台風による被害として、亜高木のミズナラの枯損とシキミの幹折れが確認された。低木層はシカの忌避植物であるシキミが生育する程度で、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



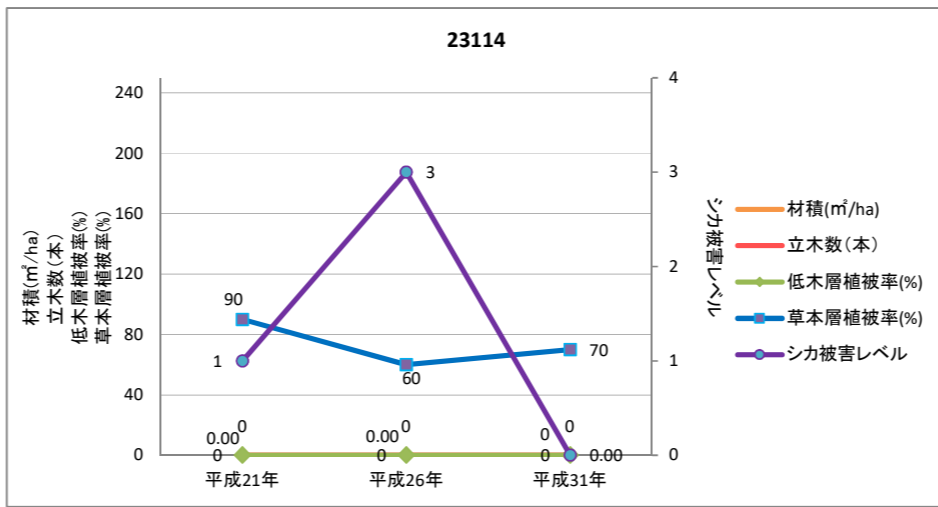
高木層では、2018年の台風24号による風害で、モミやミズキの枯損が3本確認された。この他、枯死していないものの、イイギリやヤマザクラなど根返り倒伏木が6本確認され、台風により甚大な被害が生じている。低木層はヤブツバキが生育する程度で、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。

①霧島山生物群集保護林(3)

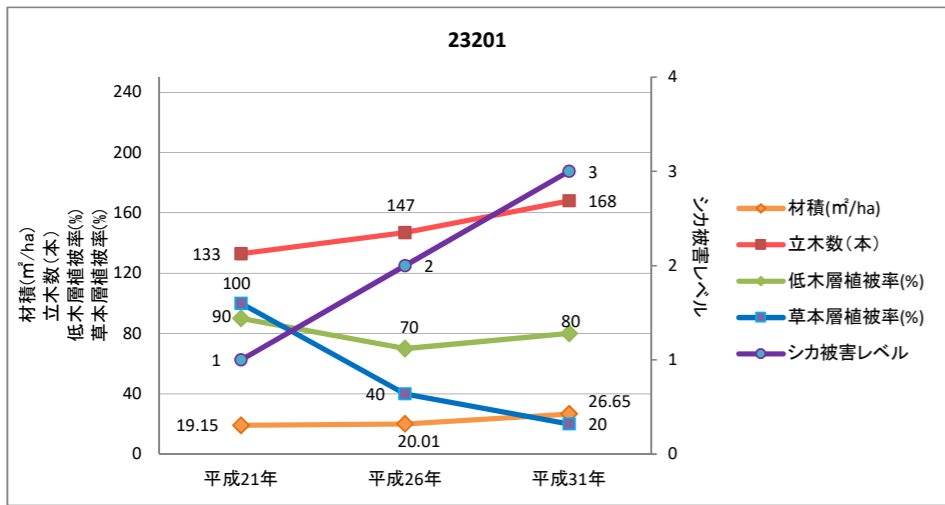
プロットNo.	23113			23114(立木なし)			23201			23202		
	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	62.80	66.05	68.88	0.00	0.00	0.00	19.15	20.01	26.65	50.04	56.29	63.48
立木数(本)	50	52	59	0	0	0	133	147	168	117	117	125
低木層植被率(%)	50	50	40	0	0	0	90	70	80	70	50	30
草本層植被率(%)	0	2	0.1	90	60	70	100	40	20	30	10	1
シカ被害レベル	1	2	3	1	3	除外	1	2	3	1	2	3
低木層種数	6	7	5	0	0	0	8	9	5	10	11	7
草本層種数	8	4	5	26	15	24	11	10	13	13	6	6
低木層優占種	ヤブツバキ	サカキ サザンカ バリバリノキ ツブラジイ	ヤブツバキ サザンカ イヌガシ バリバリノキ	/	/	/	タンナサワフタギ ネジキ コバナクロヅル	タンナサワフタギ ネジキ コバナクロヅル	クロヅル タンナサワフタギ ヤマツツジ	クロバイ イスノキ ツブラジイ	ヒサカキ	スタジイ、サカキ、ヒサカキ、クロキ、イスノキ、モッコク、ヤブツ
草本層優占種	なし	なし	なし	ススキ	ススキ	ススキ	スズタケ	スズタケ	キガンビ ネジキ	シキミ	ヒサカキ	なし



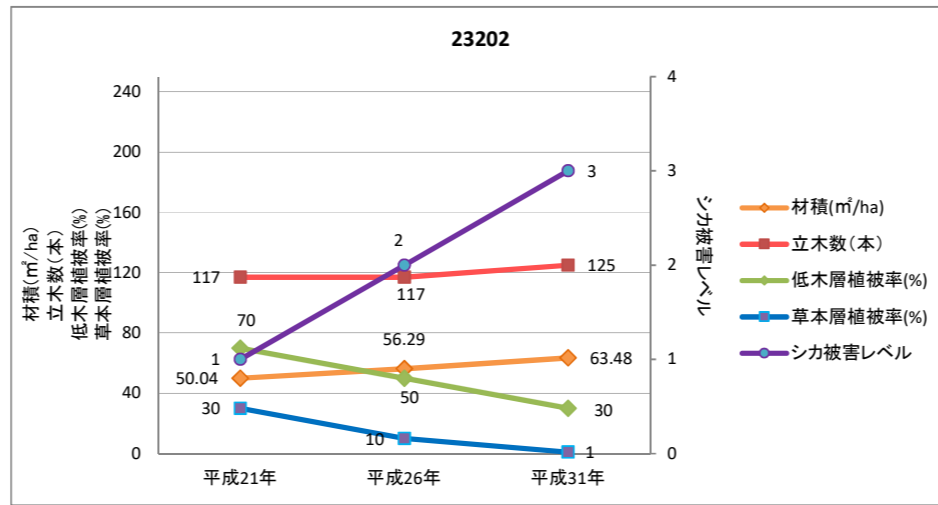
高木層では、大径木のホソバツバや樹種不明の枯損が確認され、やや健全性を欠きつつある。低木層はサザンカやヤブツバキなどが生育する程度で、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



当プロットは高千穂峰近くの草地に位置し、高木層から低木層を欠く。草本層はススキとヤママキリシマが優占し、高被度で被覆している。なお、ススキ群落の中に、キリシマヒゴタイやイワカガミ、ツクシゼリなどの希少種の生育が確認された。



高木層では、大径木のアカマツやモミの他、樹種不明の枯損が確認され、やや健全性を欠きつつある。低木層は、小径木のクロヅル、タンナサワフタギ、ヤマツツジ、ネジキが密生するが、林内の見通しは良い。草本層にはスズタケが生育するが、シカの採食による矮小化と、開花による枯死が確認された

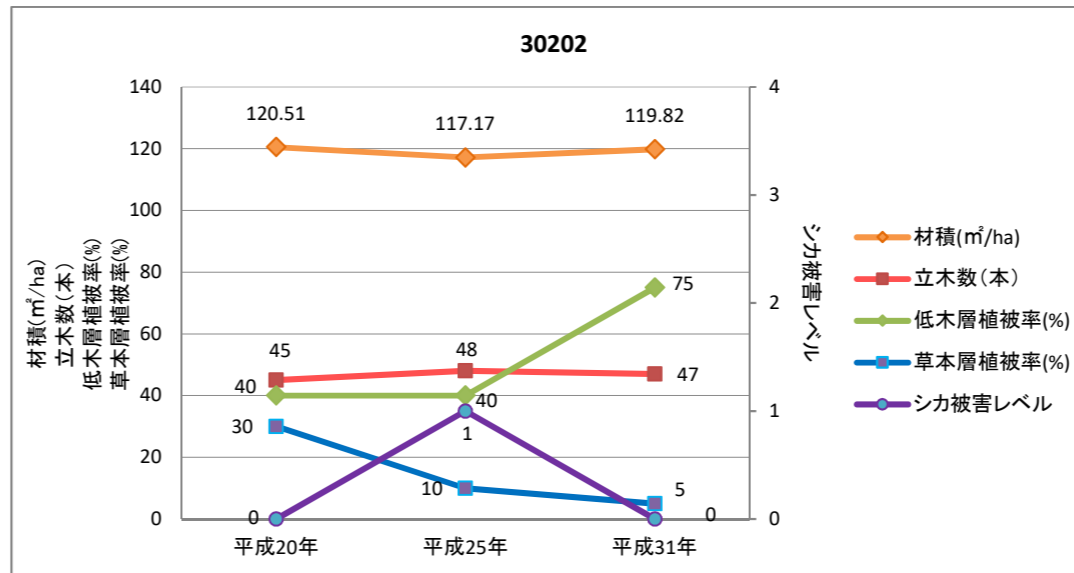
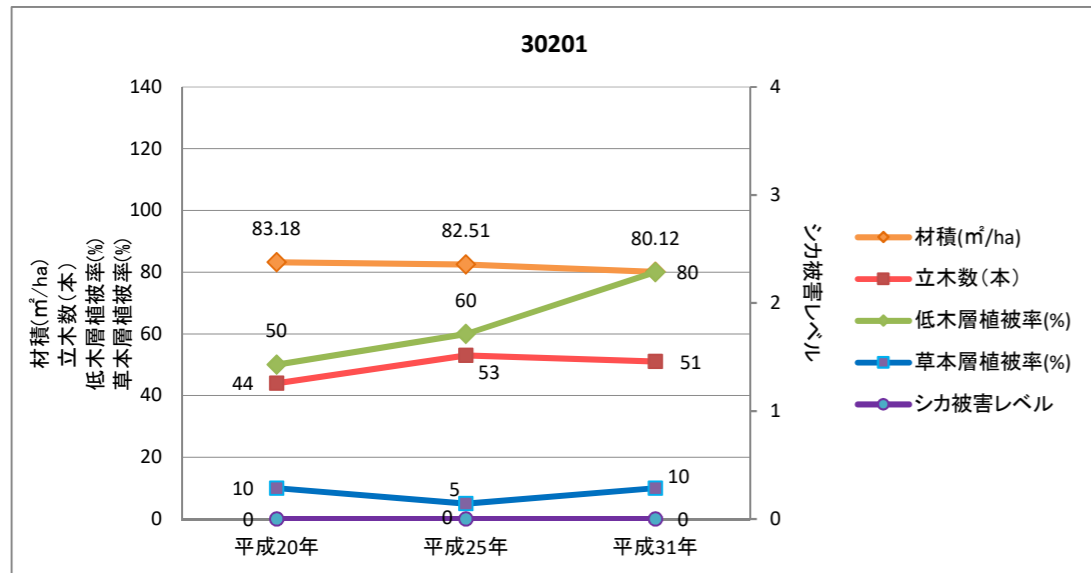


高木層では、大径木のアカガシや樹種不明の枯損が確認され、やや健全性を欠きつつある。低木層はスタジイやクロキなどが生育する程度で、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。

②立花山クスノキ遺伝資源希少個体群保護林

:平成31年度における植被率は植生調査区(NSEW区)の平均値。平成20年度及び平成25年度における植被率は小円部における値。

プロットNo.	30201			30202		
	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2019年) 平成31年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	83.18	82.51	80.12	120.51	117.17	119.82
立木数(本)	44	53	51	45	48	47
低木層植被率(%)	50	60	80	40	40	75
草本層植被率(%)	10	5	10	30	10	5
シカ被害レベル	0	0	0	0	1	0
低木層種数		6	7		7	4
草本層種数		8	11		15	6
低木層優占種		アオキ	ネズミモチ アオキ		アオキ	アラカシ アオキ
草本層優占種		アオキ	マメヅタ アオキ		アオキ ベニシダ イズセンリョウ サンゴジュ	アオキ イズセンリョウ



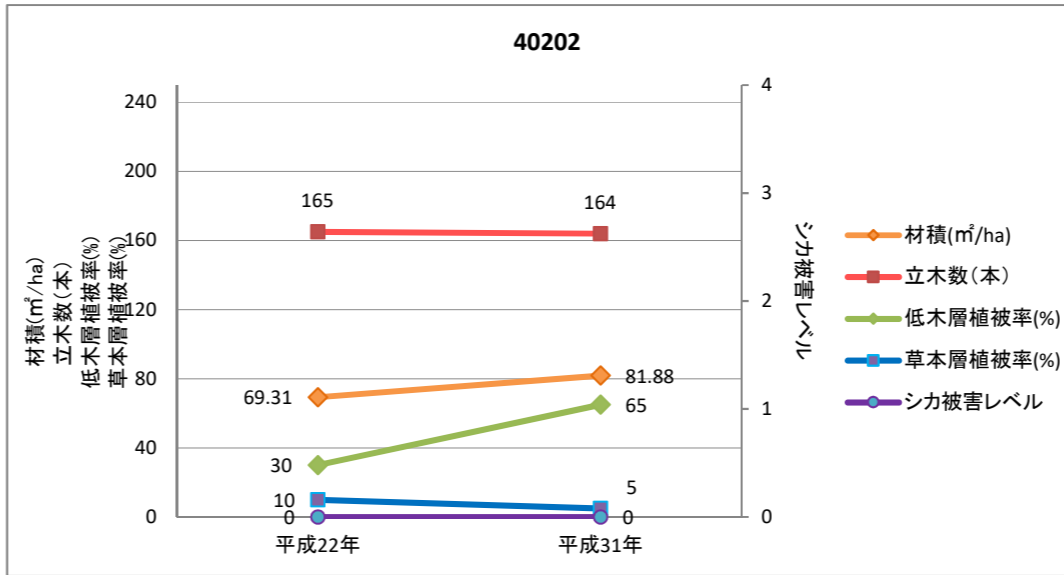
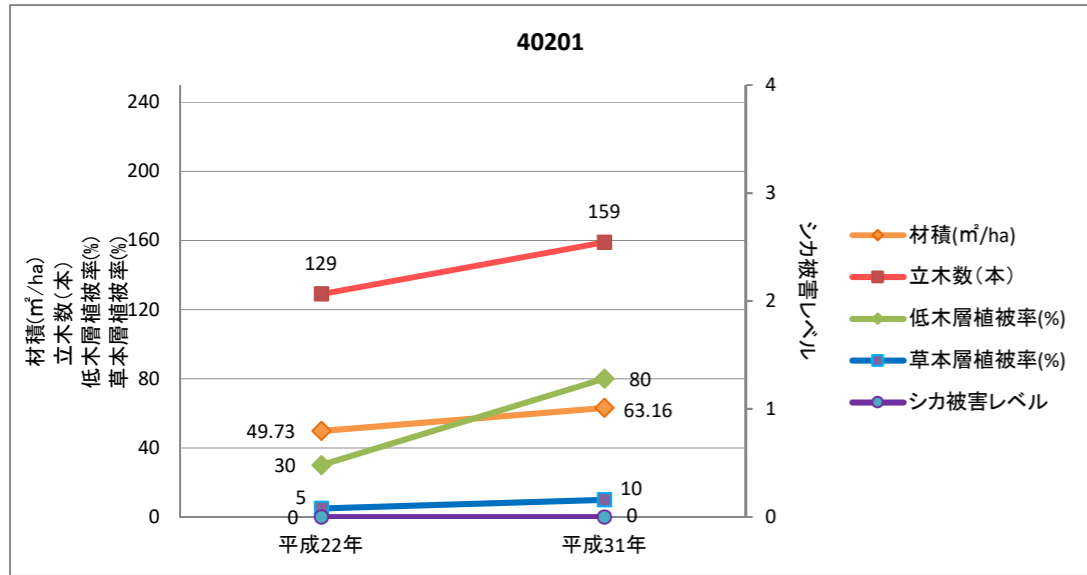
高木層では、樹種不明の枯損が4本確認されたが、シカ被害は生じていない。低木層はシカの嗜好植物であるアオキの他ネズミモチが優占し、林内の見通しは悪い。草本層はアオキが優占するが、常緑広葉樹林で林床が暗いためか植被率の低い部分もある。

高木層では、樹種不明の枯損が1本確認された他に枯損はなく、健全である。低木層はシカの嗜好植物であるアオキの他アラカシが優占し、林内の見通しは非常に悪い。草本層はアオキが優占するが、常緑広葉樹林で林床が暗いためか植被率は低い。

③音滝山アカマツ等希少個体群保護林

:平成31年度における植被率は植生調査区(NSEW区)の平均値。平成22年度における植被率は小円部における値。

プロットNo.	40201		40202	
	(2010年) 平成22年	(2019年) 平成31年	(2010年) 平成22年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	49.73	63.16	69.31	81.88
立木数(本)	129	159	165	164
低木層植被率(%)	30	80	30	65
草本層植被率(%)	5	10	10	5
シカ被害レベル	0	0	0	0
低木層種数	5	12	4	8
草本層種数	6	7	10	7
低木層優占種	シロダモ、ヤブニッケイ、アオキ	アオキ、シロダモ	アオキ	ヒサカキ、カゴノキ
草本層優占種	シロダモ	アオキ ヤブムラサキ	シロダモ	スダジイ ヤブツバキ



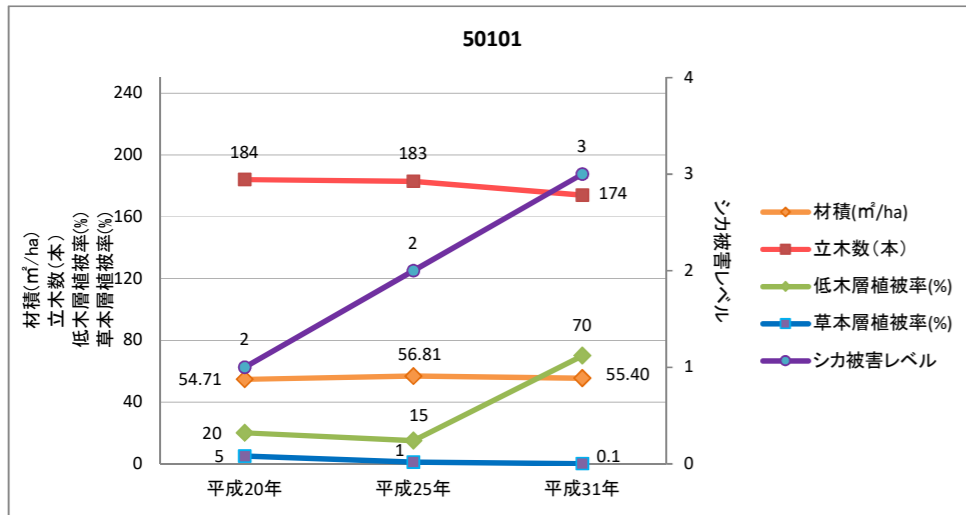
高木層では、樹種不明の枯損が3本確認されたが、新たなアカマツの枯損は確認されず、健全である。低木層の植被率は高く、アオキやヒサカキなどが茂り、林内の見通しは悪い。林床が暗いためか草本層の植被率は低い、シカの嗜好性植物であるアオキやヤブムラサキなどの生育が確認される。

高木層に枯損や倒伏はなく、アカマツの枯損も確認されず、健全である。低木層の植被率は高く、ヒサカキやカゴノキなどの小径木が茂るが、林内の見通しはやや良い。林床が暗いためか草本層の植被率は低い、スダジイやヤブツバキなどの生育が確認される。

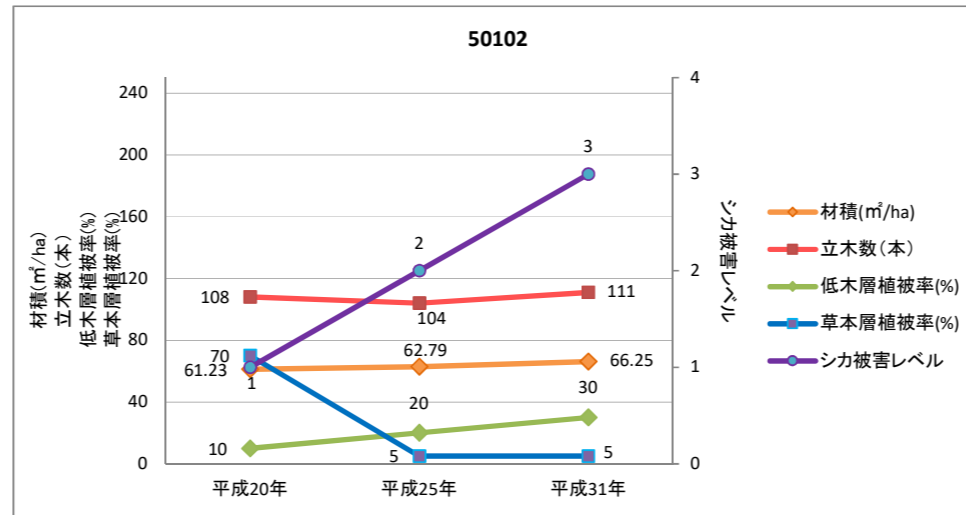
④御岳ツシヤママネコ希少個体群保護林

※平成20年度、平成25年度、平成31年度の植被率は小円部における値。

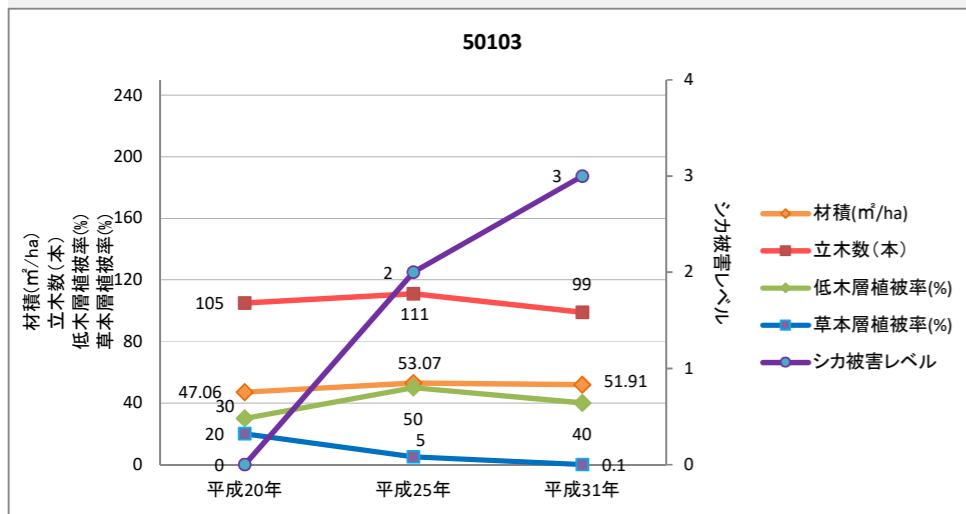
プロットNo.	50101			50102			50103			50104(50101代替地)		
	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2019年) 平成31年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2019年) 平成31年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2019年) 平成31年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	54.71	56.81	55.40	61.23	62.79	66.25	47.06	53.07	51.91			70.28
立木数(本)	184	183	174	108	104	111	105	111	99			73
低木層植被率(%)	20	15	70	10	20	30	30	50	40			30
草本層植被率(%)	5	1	0.1	70	5	5	20	5	0.1			1
シカ被害レベル	1	2	3	1	2	3	0	2	3			3
低木層種数		5	5		5	4		7	6			4
草本層種数		1	3		3	2		8	6			4
低木層優占種		ヤブツバキ	ヤブツバキ		ヤブツバキ	ヤブツバキ		ヒサカキ、サカキ、イヌガシ、モチノキ、ヤブツバキ	ヒサカキ			イヌガシ
草本層優占種		シロダモ	なし		イヌガシ、シキミ	イヌガシ、シキミ		ヒサカキ、ベニシダ、イヌガシ	なし			イヌガシ



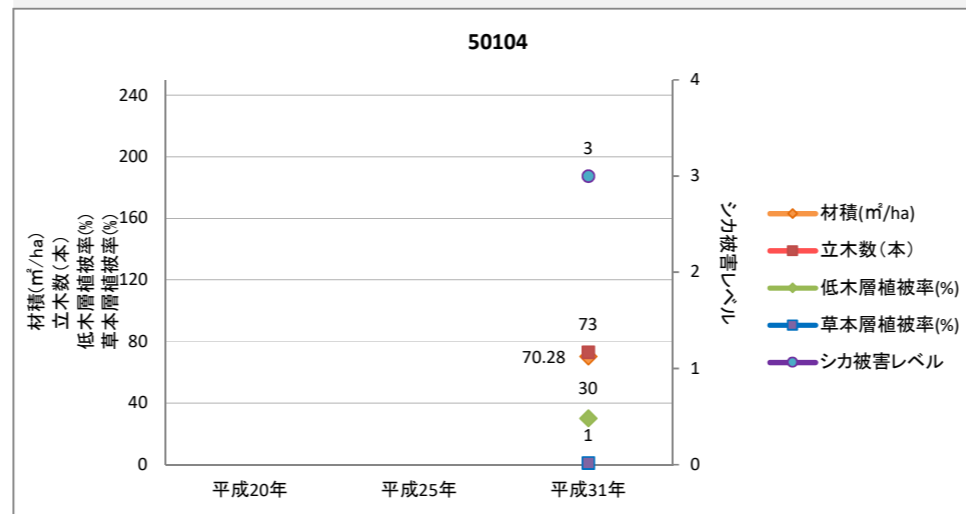
高木層では、大径木のモミの枯損が1本確認された他に高木層構成種の枯損はなく、健全である。低木層はシカの忌避植物であるイヌガシとシキミが優占しており、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



高木層では、大径木のアカガシの枯損が2本確認されたがシカ被害は生じておらず、健全である。低木層はシカの忌避植物であるイヌガシとシキミが優占しており、林内の見通しはよい。草本層はイヌガシが優占する程度で植被率が極めて低く、貧弱である。



高木層では、スダジイと樹種不明の枯損が確認されたが、シカ被害は生じておらず健全である。低木層はヤブツバキが優占するが、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。

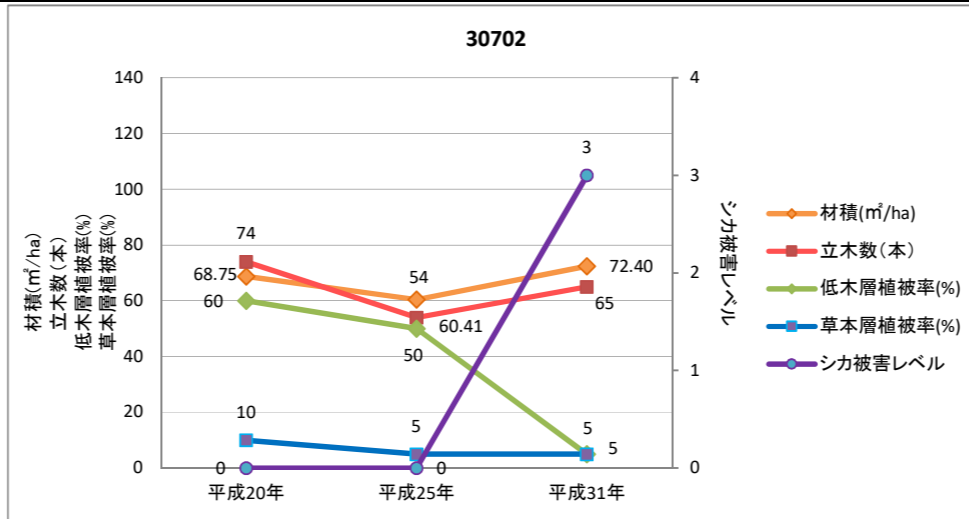
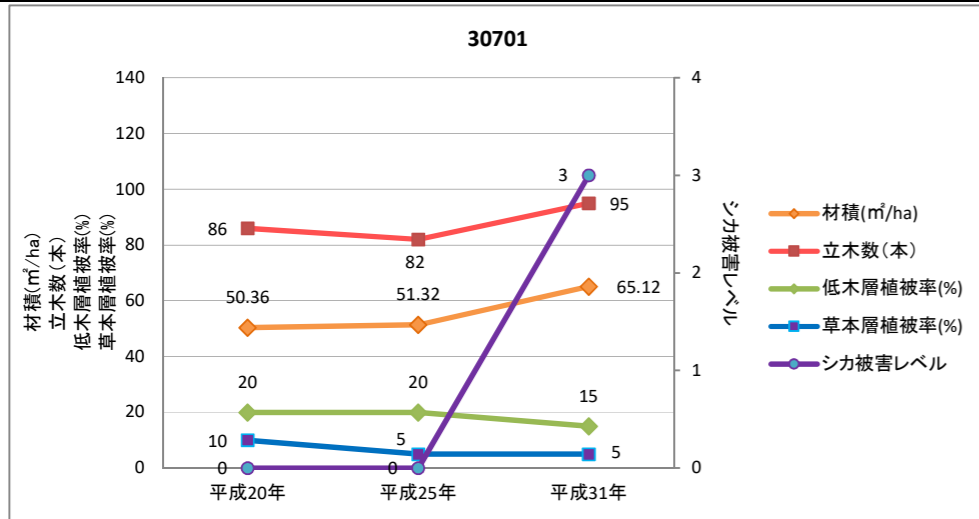


高木層では、大径木のスダジイの他、イヌガヤや樹種不明の枯損が確認され、やや健全性を欠きつつある。低木層及び草本層は貧弱で、林内の見通しはよい。林床は露岩が多く、植被率が極めて低い。

⑤北向山スギ等遺伝資源希少個体群保護林

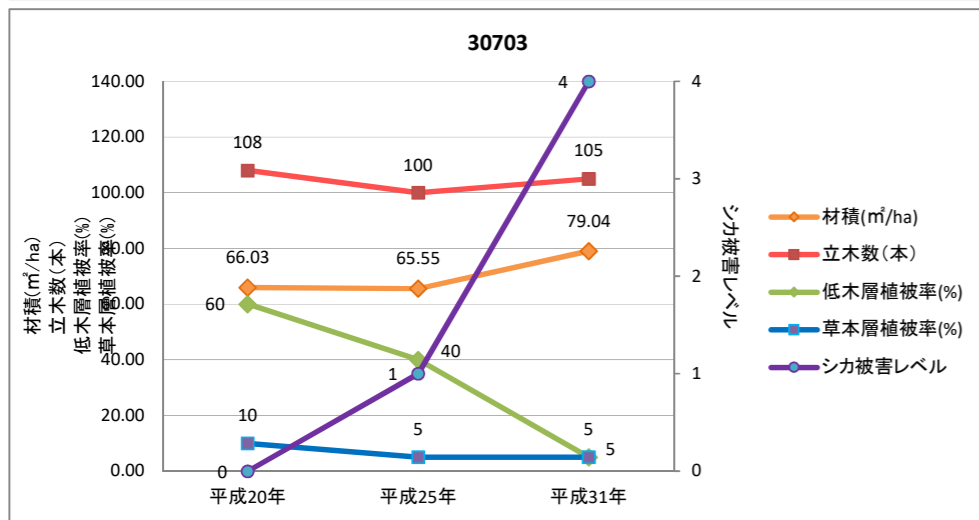
:平成31年度における植被率は植生調査区(NSEW区)の平均値。平成20年度及び平成25年度における植被率は小円部における値。

プロットNo.	30701			30702			30703		
	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2019年) 平成31年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2019年) 平成31年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	50.36	51.32	65.12	68.75	60.41	72.40	66.03	65.55	79.04
立木数(本)	86	82	95	74	54	65	108	100	105
低木層植被率(%)	20	20	15	60	50	5	60	40	5
草本層植被率(%)	10	5	5	10	5	5	10	5	5
シカ被害レベル	0	0	3	0	0	3	0	1	4
低木層種数		8	7		4	4		7	2
草本層種数		4	23		4	14		4	11
低木層優占種		サカキ、ヤブニッケイ シロダモ、ヤブツバ	ヤブニッケイ ヤブムラサキ		アオキ	シロダモ		アオキ	シロダモ
草本層優占種		なし	なし		アオキ	なし		アオキ	イヌガシ、アオキ



高木層では、スダジイや樹種不明の枯損が確認され、老齢による枯損と思われるが、やや健全性を欠きつつある。低木層はヤブニッケイやヤブツバキが優占するが、林内の見通しはよい。草本層は確認種数が多いものの、植被率が極めて低く貧弱である。

高木層では、樹種不明の枯損が2本確認されたが、シカ被害は生じておらず健全である。低木層及び草本層において、アオキの生育が確認された。しかし、林内見通しはよく、植被率が極めて低く、貧弱である。

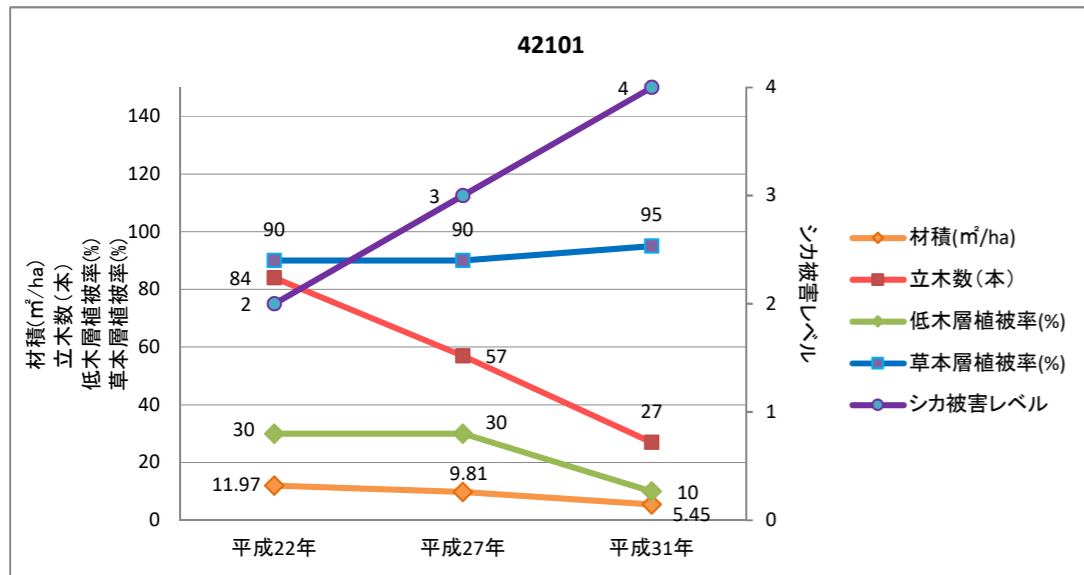


高木層では、大径木のヤマザクラの枯損が確認された他に枯損はなく、健全である。林内の見通しはよく、低木層及び草本層の植被率は極めて低く、貧弱である。草本層にアオキの生育が確認された。なお、表土流亡が起こっており、草本層の衰退が顕著である。

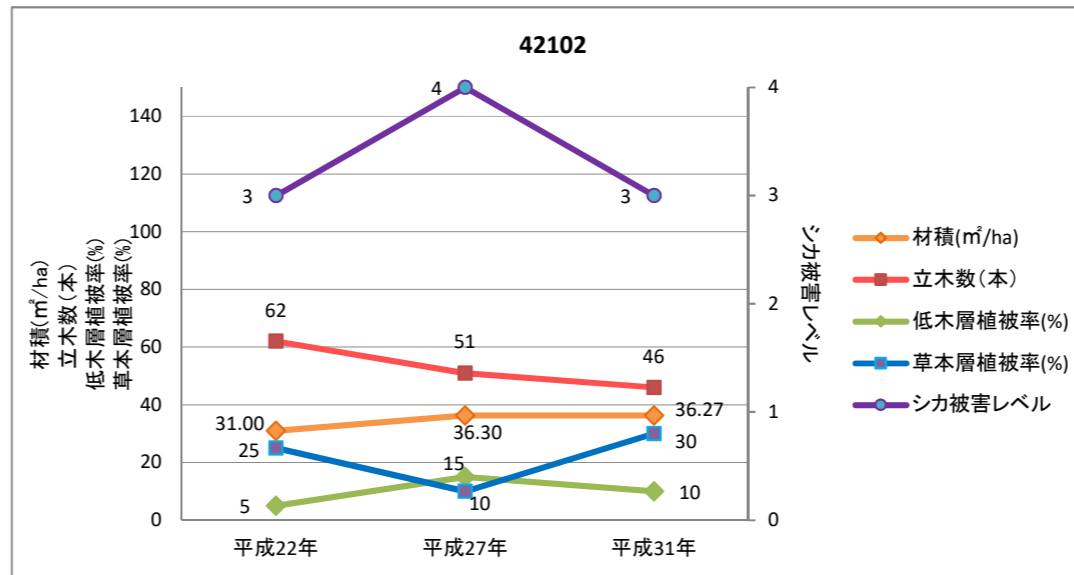
⑥市房モミ等希少個体群保護林

※平成20年度、平成27年度、平成31年度の植被率は小円部における値。

プロットNo.	42101			42102		
	(2010年) 平成22年	(2015年) 平成27年	(2019年) 平成31年	(2010年) 平成22年	(2015年) 平成27年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	11.97	9.81	5.45	31.00	36.30	36.27
立木数(本)	84	57	27	62	51	46
低木層植被率(%)	30	30	10	5	15	10
草本層植被率(%)	90	90	95	25	10	30
シカ被害レベル	2	3	4	3	4	3
低木層種数	7	6	4	1	3	2
草本層種数	6	7	7	7	13	18
低木層優占種	マンサク	シロモジ コミネカエデ	マンサク、シロモジ、 ヒコサンヒメシヤラ ツクシアケボノツツジ	なし	カマツカ	コハクウンボク カマツカ
草本層優占種	ヤマカモジグサ	ヤマカモジグサ	ヤマカモジグサ	スゲ属	スゲ属 イネ科	スゲ属



当プロットは、高木層及び亜高木層を欠く。低木層はほぼ全てのマンサクが枯死し、林内の見通しは非常によくなっており、森林の健全性が失われている。草本層は植被率100%近いヤマカモジグサの草原になっており、自然状態の種組成とは異なった林分となっている。



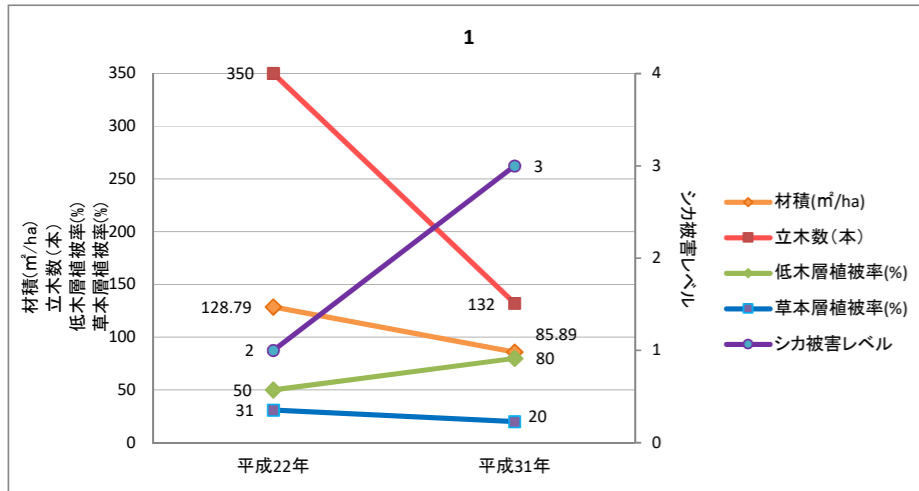
高木層では大径木のブナの枯損が確認された他に枯損はなく、健全である。低木層はカマツカやコハクウンボクが優占するが、林内の見通しは非常によい。草本層の植被率は高く、シカが食害しないスゲ属が優占している。

⑦市房ツガ等遺伝資源希少個体群保護林

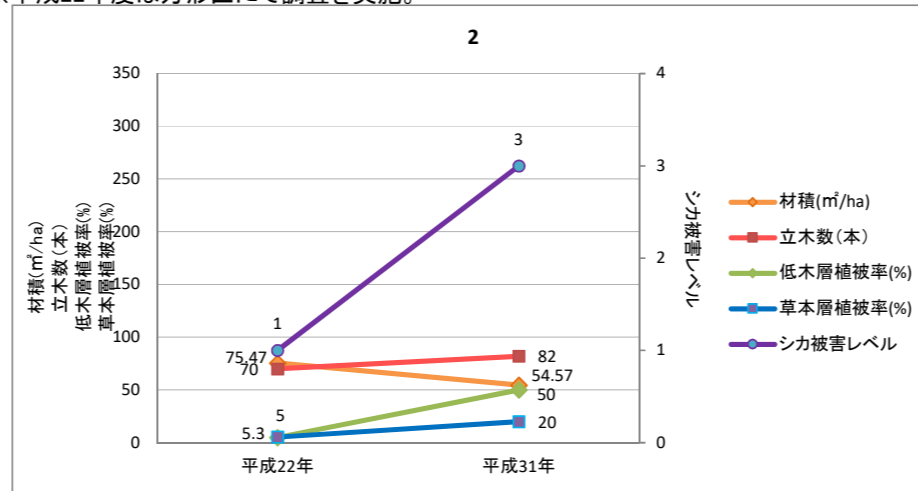
:平成22年度は5つの方形区における平均値。平成31年度における植被率は小円部における値。

プロットNo.	プロット1		プロット2		プロット3	
	(2010年)※ 平成22年	(2019年) 平成31年	(2010年)※ 平成22年	(2019年) 平成31年	(2010年)※ 平成22年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	128.79	85.89	75.47	54.57	71.46	38.34
立木数(本)	350	132	70	82	64	33
低木層植被率(%)	50	80	5	50	25	30
草本層植被率(%)	31	20	5.3	20	25.2	30
シカ被害レベル	1	3	1	3	1	3
低木層種数	2	6	0	4	1	3
草本層種数	5	8	5	22	2	16
低木層優占種	ハイノキ	ハイノキ	ヤブツバキ	シキミ	コガクウツギ アブラチャン	アブラチャン
草本層優占種	ツルシキミ	ミヤマシキミ	ヤブツバキ	ヒメシヤラ ホソバコケシノブ マツカゼソウ	コガクウツギ	ガクウツギ

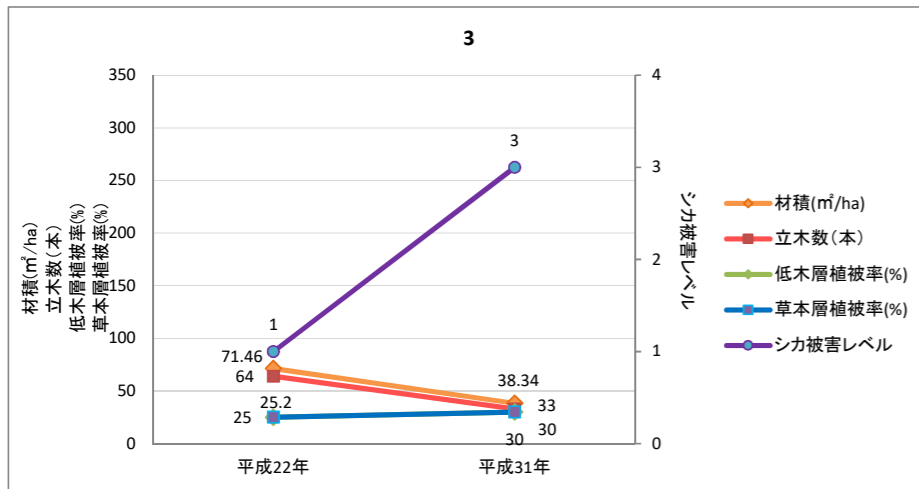
※平成22年度は方形区にて調査を実施。



高木層では、大径木のツガの枯損が確認された他に枯損はなく、健全である。低木層はハイノキ、アセビ、シキミなどシカの忌避植物が繁茂し、林内の見通しは悪い。草本層の植被率は高く、シカの忌避植物であるミヤマシキミやシキミが優占する。
※立木数の大幅な減少の一つの要因は、過年度は方形区で調査されていたがマニュアル改訂に伴い今年度は円形で調査したため、調査範囲が一部変わったことが考えられる。



高木層では、樹種不明の大径木の枯損が確認された他に枯損はなく、健全である。低木層はシキミやヒメシヤラなどシカの忌避植物が繁茂し、林内の見通しは悪い。草本層の植被率は高く、シカの忌避植物であるマツカゼソウやヒメシヤラが優占する。

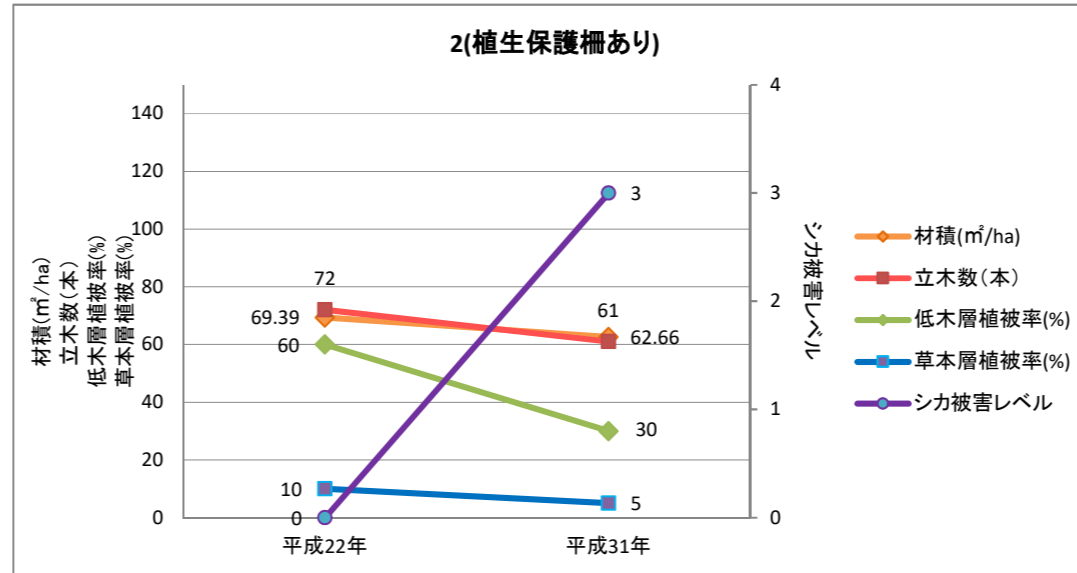
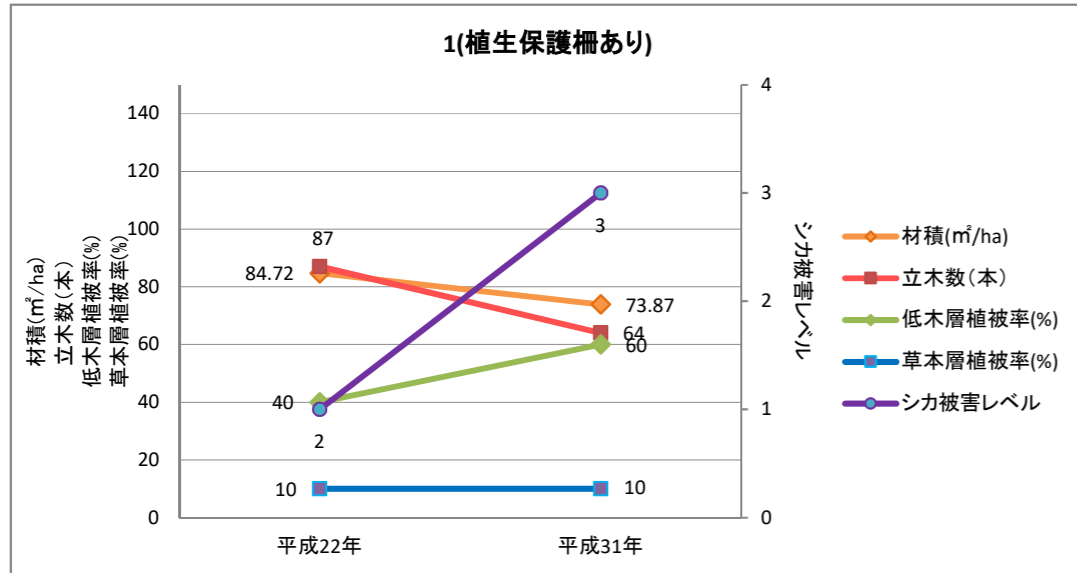


高木層では、樹種不明の大径木の枯損が確認された他に枯損はなく、健全である。低木層はガクウツギやアブラチャンが繁茂し、林内の見通しは悪い。草本層の植被率は高く、シカの忌避植物であるガクウツギが優占する。
※立木数の大幅な減少の一つの要因は、過年度は方形区で調査されていたがマニュアル改訂に伴い今年度は円形で調査したため、調査範囲が一部変わったことが考えられる。

⑧市房ゴイシツバメシジミ希少個体群保護林

※平成22年度及び平成31年度の植被率は小円部における値。

プロットNo.	プロット1(植生保護柵あり)		プロット2(植生保護柵あり)	
	(2010年) 平成22年	(2019年) 平成31年	(2010年) 平成22年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	84.72	73.87	69.39	62.66
立木数(本)	87	64	72	61
低木層植被率(%)	40	60	60	30
草本層植被率(%)	10	10	10	5
シカ被害レベル	1	3	0	3
低木層種数	8	8	12	12
草本層種数	20	10	35	27
低木層優占種	イヌガヤ	イヌガヤ	ホソバタブ、ウラジログシ、ヤブツバキ、サカキ、シキミ、エゴノキ、ヤブニッケイ、ツクバネガシ	ホソバタブ、ヒサカキ、サカキ、ヤブツバキ、ツクバネガシ
草本層優占種	ミヤマフユイチゴ クマワラビ ウリノキ ノシラン	ミヤマフユイチゴ クマワラビ ヤブラン	シキミ、ヤブコウジ、ツクバネガシ、シラキ、ミヤマトベラ、ヤブツバキ、イワヘゴ、フユイチゴ	イワヘゴ、ヤブコウジ、ホソバタブ



高木層では、ホソバタブの枯損が確認された他に枯損はなく、健全である。低木層はイヌガヤが優占するが、林内の見通しはよい。草本層は植被率が低く、貧弱である。なお、ケヤキ高木にシシランが着生し、露岩上にアオキの低木が生育していた。プロットの半分が植生保護柵の中に位置するが、草本層及び低木層の回復はみられないことから、柵内にシカが侵入していると思われる。

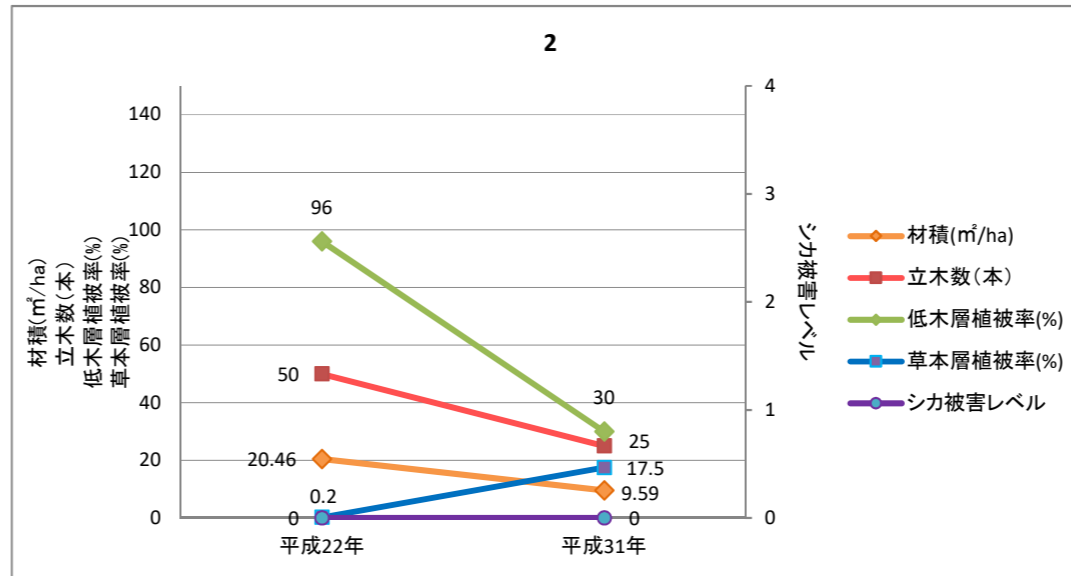
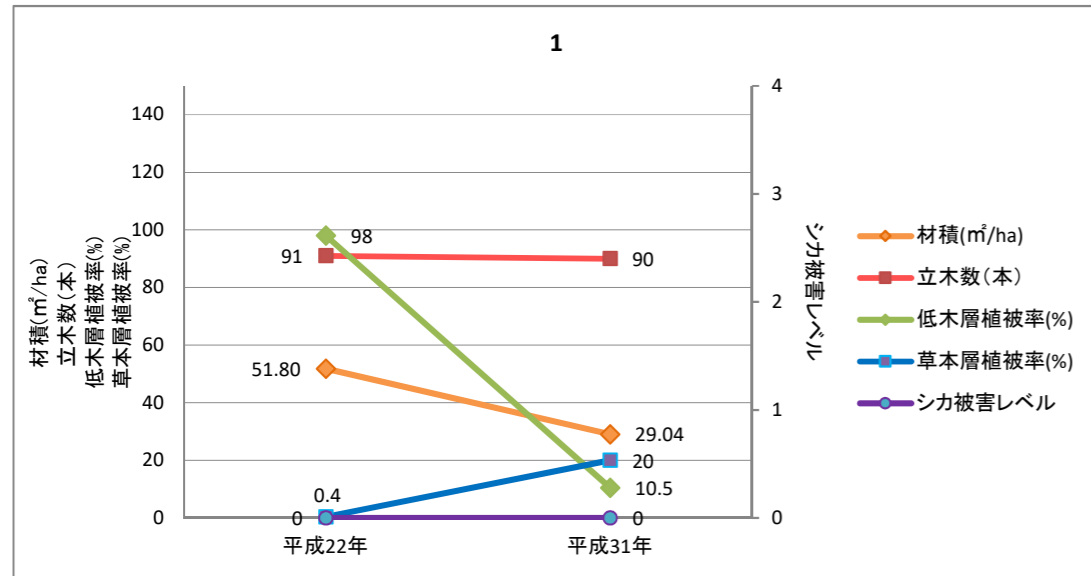
高木層に枯損や倒伏はなく、健全である。低木層はヤブツバキやホソバタブが優占したが、林内の見通しはよい。草本層は植被率が低く貧弱であるが、確認種数は多い。カツラ高木2本にシシランが、ウラジログシ高木にヒモランが着生していた。プロットの半分が植生保護柵の中に位置するが、草本層及び低木層の回復はみられないことから、柵内にシカが侵入していると思われる。

⑨兵戸山モミ等遺伝資源希少個体群保護林

:平成31年度における植被率は植生調査区(NSEW区)の平均値。平成22年度は5つの方形区における平均値。

プロットNo.	プロット1		プロット2	
	(2010年) 平成22年	(2019年) 平成31年	(2010年) 平成22年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	51.80	29.04	20.46	9.59
立木数(本)	91	90	50	25
低木層植被率(%)	98	10.5	96	30
草本層植被率(%)	0.4	20	0.2	17.5
シカ被害レベル	0	0	0	0
低木層種数	1	4	1	4
草本層種数	0	22	1	14
低木層優占種	スズタケ	イヌツゲ ナガバモミジイチゴ	スズタケ	ナガバモミジイチゴ
草本層優占種		ナガバモミジイチゴ	スズタケ	コバノイシカグマ

※平成22年度は方形区にて調査を実施。



高木層に枯損や倒伏はなく、健全である。低木層はスズタケが開花枯死したため、植被率が大幅に低下している。スズタケの枯死に伴い林床が明るくなったためか、草本層の植被率が高くなり、ナガバモミジイチゴが優占する他、シカの嗜好植物であるシロモジやスズタケの開花していない残存個体の生育が確認された。シカ被害はなく、種多様性が認められ、植生は豊かである。しかし、スズタケは全域的に開花または枯死稈が残る程度にまで衰退しており、スズタケの残存個体も今後開花枯死するものと思われる。

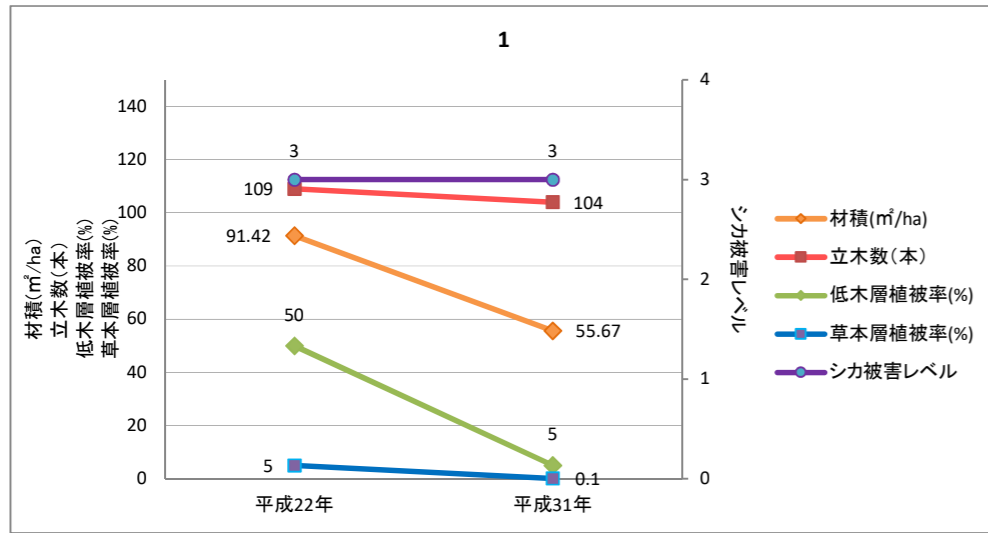
高木層に枯損や倒伏はなく、健全である。低木層はスズタケが開花枯死したため、植被率が大幅に低下している。スズタケの枯死に伴い林床が明るくなったためか、草本層の植被率が高くなり、シカの忌避植物であるコバノイシカグマが優占するものの、リュウブやスズタケの開花していない残存個体の生育が確認された。シカ被害はなく、種多様性が認められ、植生は豊かである。しかし、スズタケは全域的に開花または枯死稈が残る程度にまで衰退しており、スズタケの残存個体も今後開花枯死するものと思われる。

⑩大石榎山アカガシ等希少個体群保護林

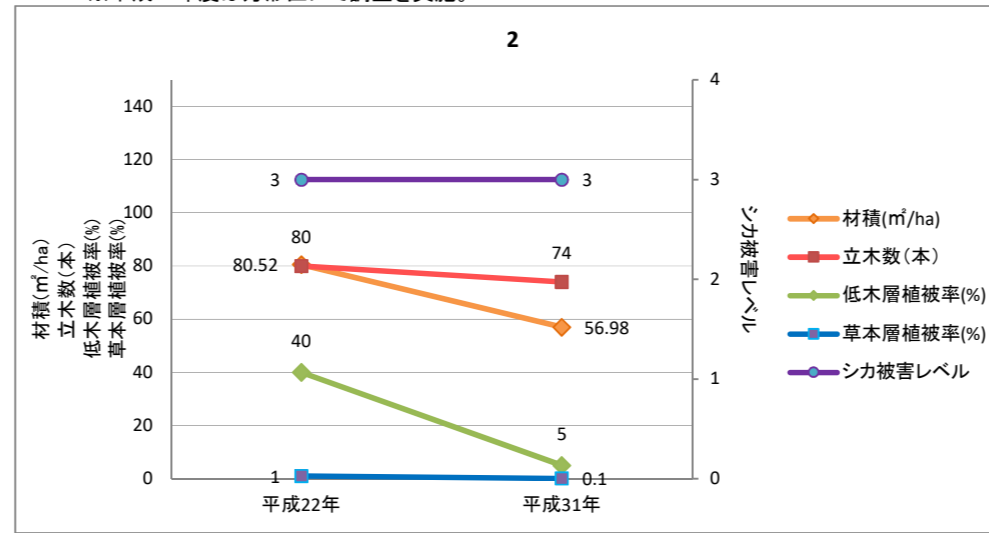
：平成31年度における植被率は植生調査区(NSEW区)の平均値。平成22年度における植被率は調査プロット全域(10×50m)における値。

プロットNo.	プロット1		プロット2		プロット3	
	(2010年)※ 平成22年	(2019年) 平成31年	(2010年)※ 平成22年	(2019年) 平成31年	(2010年)※ 平成22年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	91.42	55.67	80.52	56.98	79.56	49.79
立木数(本)	109	104	80	74	91	71
低木層植被率(%)	50	5	40	5	50	0
草本層植被率(%)	5	0.1	1	0.1	5	0.1
シカ被害レベル	3	3	3	3	3	3
低木層種数	17	1	13	1	12	0
草本層種数	3	9	6	8	6	7
低木層優占種	ヒサカキ、ヤブツバキ、ヤブニッケ	ヤブツバキ	ヤブツバキ、ヤブニッケイ	ミツバツツジ類	ヒサカキ、アセビ、ヤブニッケイ	なし
草本層優占種	なし	なし	なし	なし	なし	なし

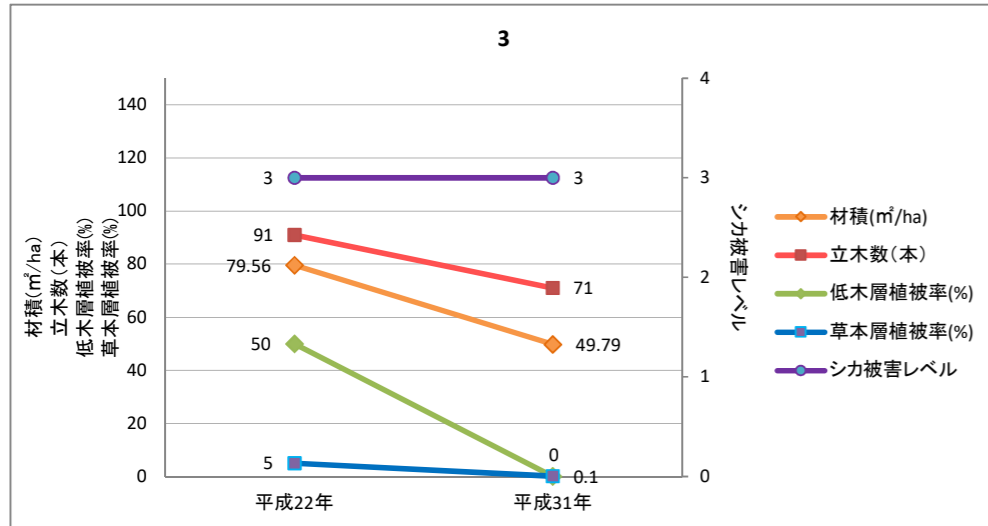
※平成22年度は方形区にて調査を実施。



高木層では、樹種不明の枯損が確認された他に枯損はなく、健全である。低木層は僅かにヤブツバキが優占する程度で、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



高木層では、樹種不明の枯損が確認された他に枯損はなく、健全である。低木層は僅かにミツバツツジ類が優占する程度で、林内の見通しは非常によい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。

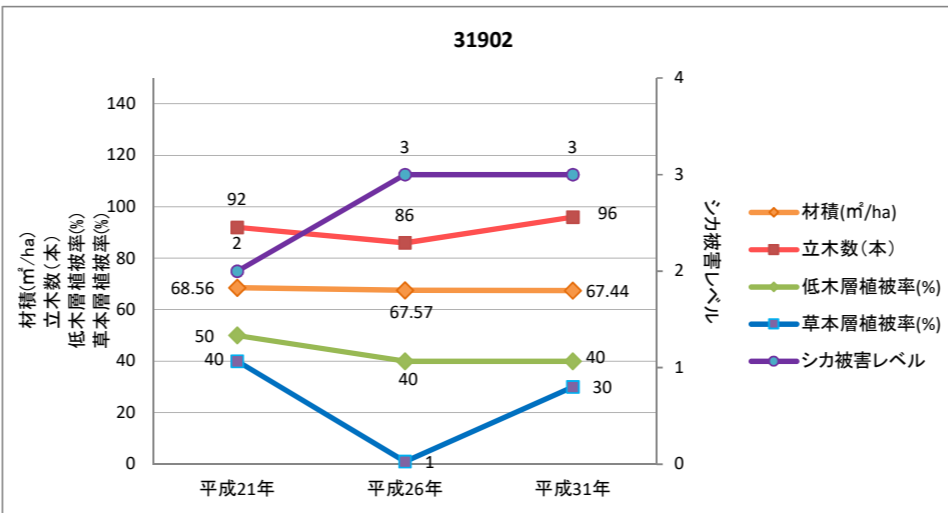
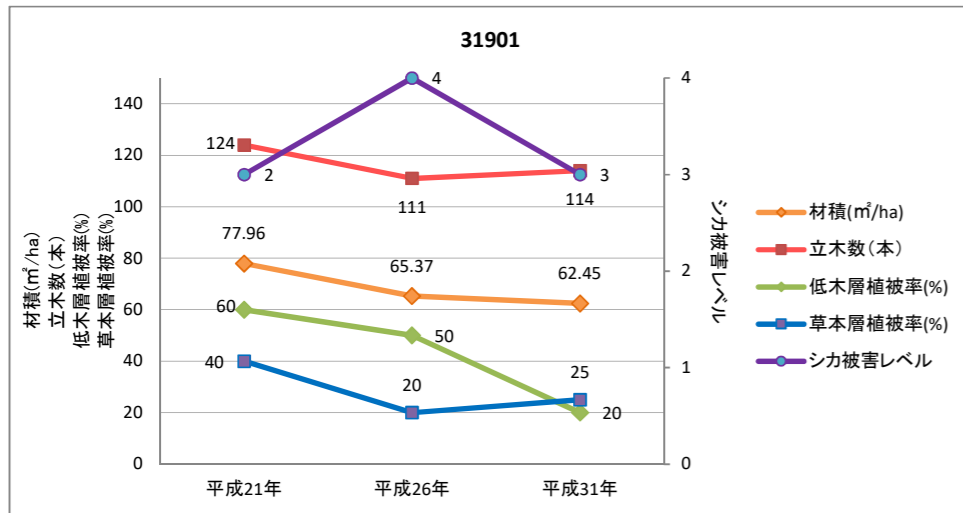


高木層では、大径木のアカガシの枯損が確認された他に枯損はなく、健全である。低木層の植被率は0%と貧弱で、林内の見通しは非常によい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。

⑪ 椋葉アカマツ等遺伝資源希少個体群保護林

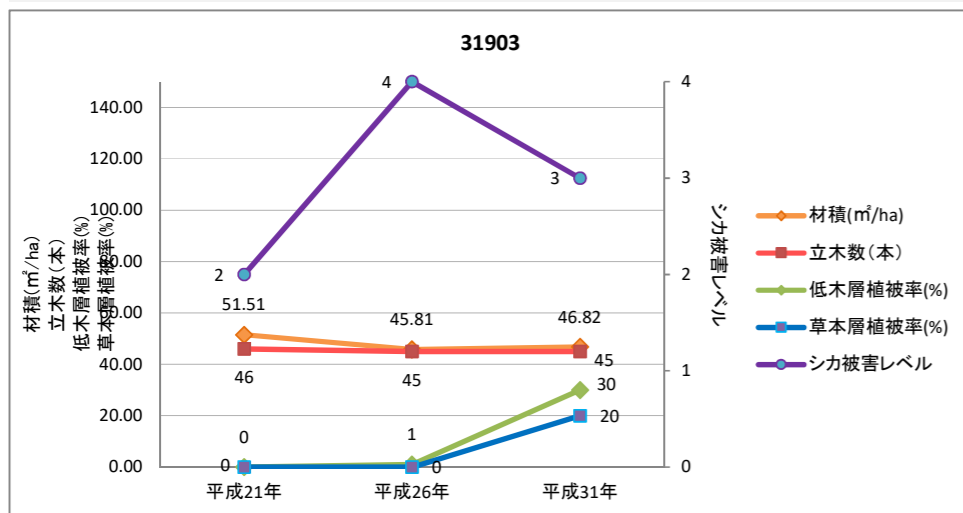
：平成31年度における31901の植被率は植生調査区(NSEW区)の平均値。平成21年度、平成26年度、平成31年度の31902及び31903の植被率は小円部における値。

プロットNo.	31901			31902			31903		
	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	77.96	65.37	62.45	68.56	67.57	67.44	51.51	45.81	46.82
立木数(本)	124	111	114	92	86	96	46	45	45
低木層植被率(%)	60	50	20	50	40	40	0	1	30
草本層植被率(%)	40	20	25	40	1	30	0	0	20
シカ被害レベル	3	4	3	2	3	3	2	4	3
低木層種数	4	3	4	4	6	4	0	3	6
草本層種数	8	7	14	8	6	10	6	6	6
低木層優占種	ハイノキ	ハイノキ シキミ	アセビ シキミ	ハイノキ、ツクシコパ ノミツバツツジ	ミヤマシキミ	ウラジロミツバツツジ アセビ	なし	なし	アセビ、タンナサワフ タギ、アオハダ
草本層優占種	ミヤマシキミ	ミヤマシキミ	ハイノキ、アセビ	ミヤマシキミ	なし	ミヤマシキミ	なし	なし	アシボソ、アセビ



高木層では、樹種不明の枯損が4本確認され、やや健全性を欠きつつある。林内の見通しは悪く、低木層及び草本層はシカの忌避植物であるアセビやハイノキ、シキミが優占している。

・高木層では、平成26年度すでに枯れていた大径木のツガ2本その他、ミズメ1本の枯損が新たに確認され、やや健全性を欠きつつある。林内の見通しはよく、低木層はツクシコパノミツバツツジが優占する。草本層はミヤマシキミが優占するが植被率が極めて低く、生育種の大半をシカの忌避植物が占める。

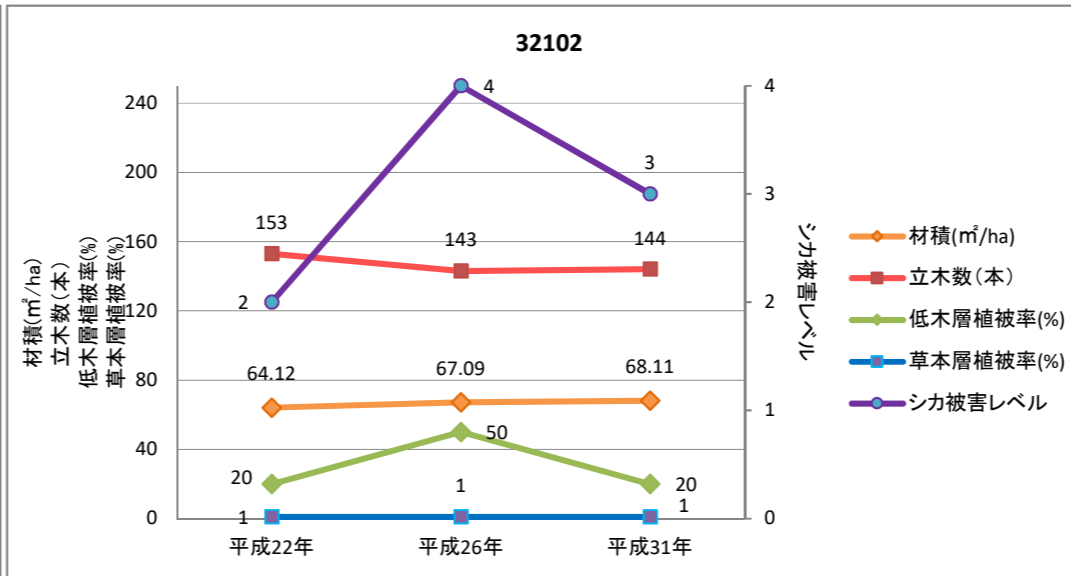
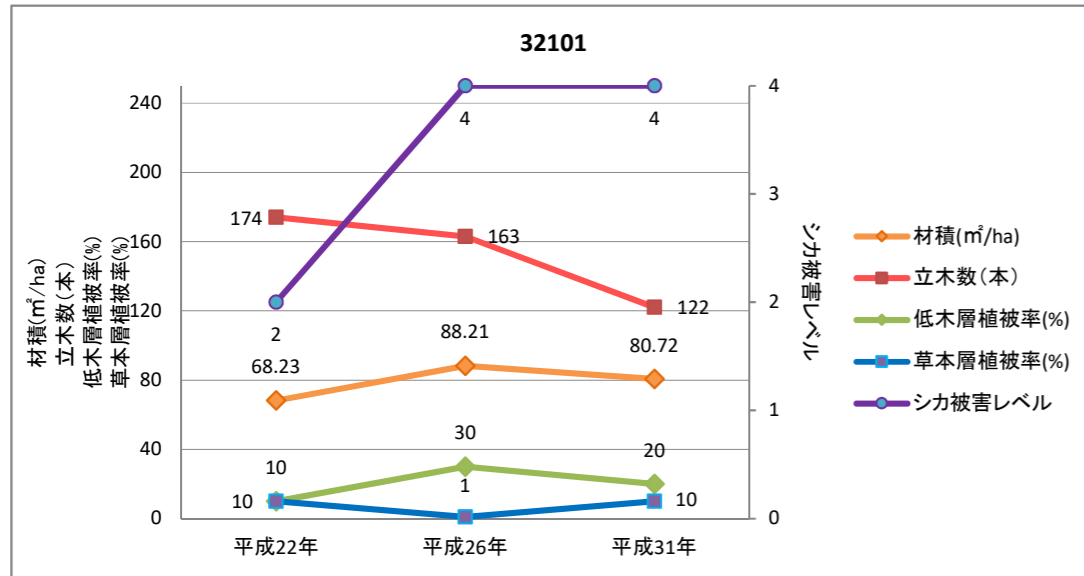


・高木層では、樹種不明の枯損が2本確認され、老齢による枯損と思われるが、やや健全性を欠きつつある。また、ミズナラの大径木において、天狗巣病が確認された。林内の見通しは非常によく、低木層はシカの忌避植物であるアセビなどが生育する。草本層は一部にアシボソが群生している箇所もあるが、草本層は貧弱である。

⑫尾鈴アカマツ等遺伝資源希少個体群保護林

:平成31年度における32101の植被率は植生調査区(NSEW区)の平均値。平成22年度、平成26年度、平成31年度の32102の植被率は小円部における値。

プロットNo.	32101			32102		
	(2010年) 平成22年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年	(2010年) 平成22年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	68.23	88.21	80.72	64.12	67.09	68.11
立木数(本)	174	163	122	153	143	144
低木層植被率(%)	10	30	20	20	50	20
草本層植被率(%)	10	1	10	1	1	1
シカ被害レベル	2	4	4	2	4	3
低木層種数	5	6	4	3	4	4
草本層種数	14	7	8	5	4	3
低木層優占種	イスノキ	イスノキ	ヒサカキ	イヌガシ	なし	イスノキ
草本層優占種	ハイノキ ヒサカキ	なし	ハイノキ	なし	なし	なし



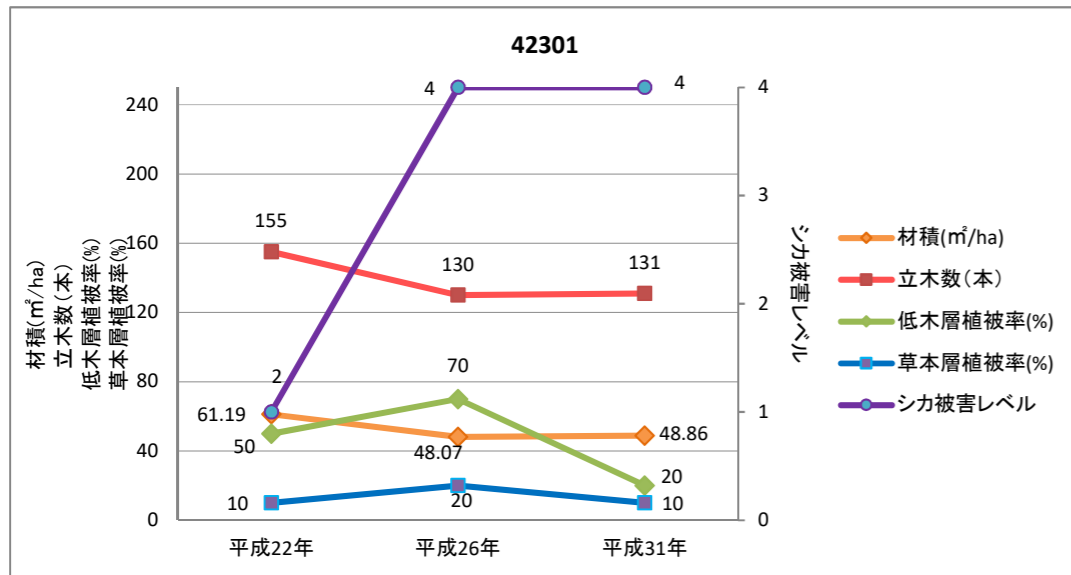
・高木層では、過年度より枯れていたと思われる樹種不明の枯損3本の外、新たにイスノキの枯損が1本確認され、健全性を欠く。林内の見通しはよく、低木層及び草本層はシカの忌避植物であるヒサカキとハイノキが優占する。急傾斜且つ谷部に位置するため表土流亡が起こっており、草本層の衰退が顕著である。

高木層では、ウラジロガシの枯損が確認された他に枯損はなく、健全である。低木層はイスノキとヒサカキが優占するが植被率は低く、林内の見通しはよい。草本層はイヌガシが僅かに優占するが植被率が極めて低く、貧弱である。

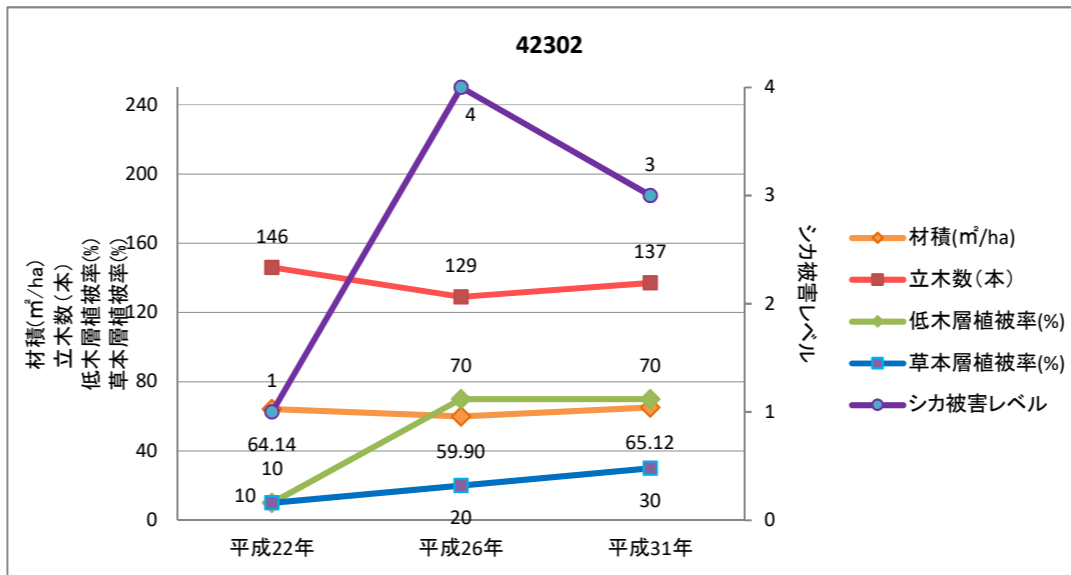
⑬尾鈴コウヤマキ希少個体群保護林

:平成31年度における42301の植被率は植生調査区(NSEW区)の平均値。平成22年度、平成26年度、平成31年度の32102の植被率は小円部における値。

プロットNo.	42301			42302		
	(2010年) 平成22年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年	(2010年) 平成22年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	61.19	48.07	48.86	64.14	59.90	65.12
立木数(本)	155	130	131	146	129	137
低木層植被率(%)	50	70	20	10	70	70
草本層植被率(%)	10	20	10	10	20	30
シカ被害レベル	1	4	4	1	4	3
低木層種数	7	5	6	5	4	4
草本層種数	14	15	16	19	10	18
低木層優占種	ツクシコバノミツバツツジ	アセビ ハイノキ ウラジロミツバツツジ	ハイノキ アセビ	アセビ	アセビ	シキミ アセビ
草本層優占種	ハイノキ	ヒメシャラ	ハイノキ ツルシキミ	ツルシキミ	コガクウツギ	コガクウツギ



高木層では、樹種不明の枯損木が11本と顕著に確認され、健全性を欠く。林内の見通しは悪いが、低木層及び草本層はシカの忌避植物であるアセビやハイノキ、シキミが優占している。



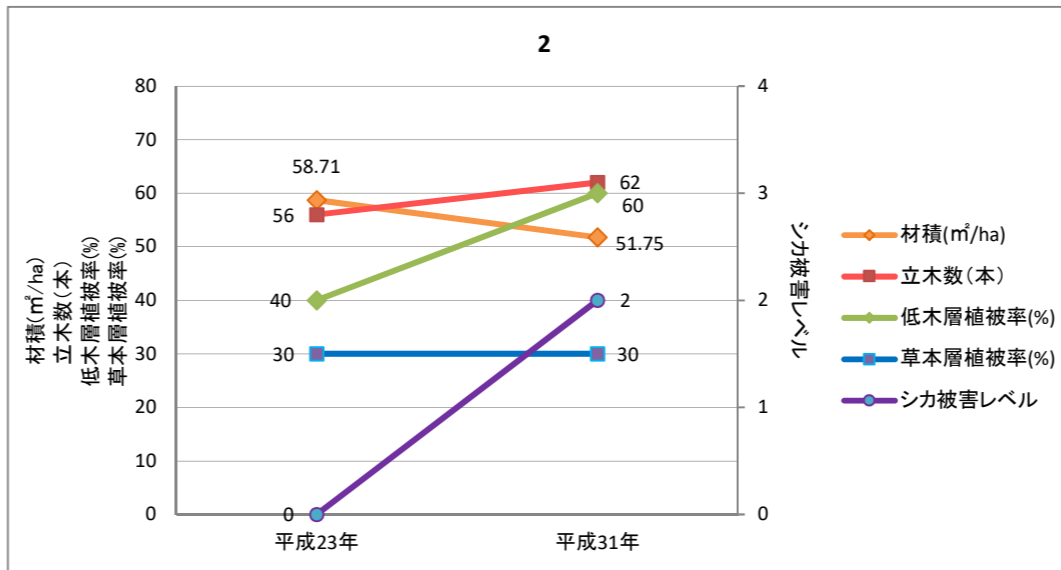
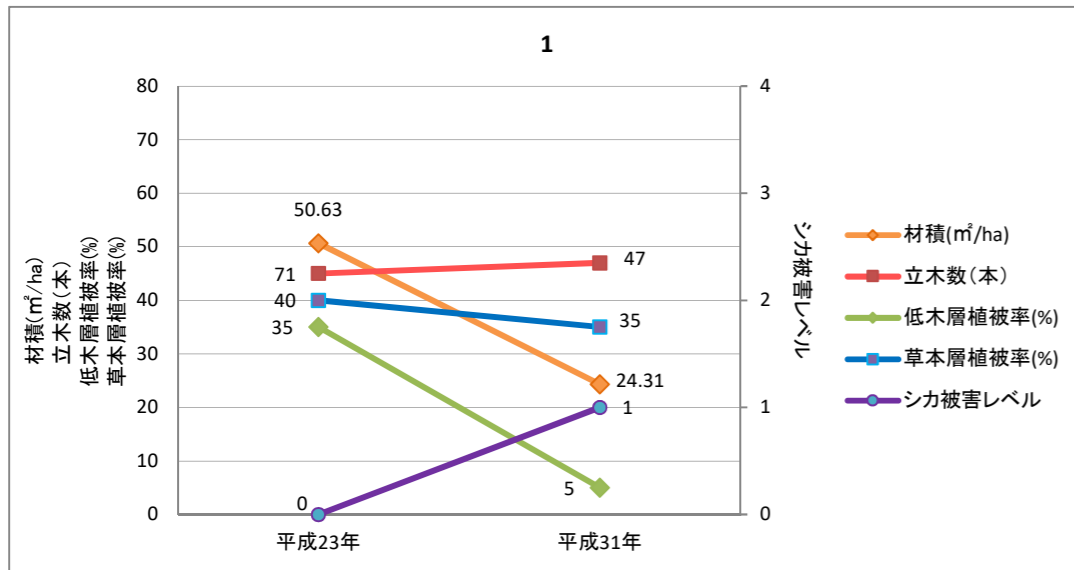
・高木層では、樹種不明の枯損が確認された他に枯損はなく、健全である。低木層はシカの忌避植物であるシキミが優占しており、林内の見通しは悪い。草本層の植被率は高いが、シカの忌避植物であるコガクウツギが優占する。

⑭八久保イチイガシ遺伝資源希少個体群保護林

:平成31年度におけるNo.1の植被率は植生調査区(NSEW区)の平均値。平成31年度のNo.2の植被率は小円部における値。平成23年度における植被率は調査プロット全域(10×50m)における値。

プロットNo.	プロット1		プロット2	
	(2011年)※ 平成23年	(2019年) 平成31年	(2011年)※ 平成23年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	50.63	24.31	58.71	51.75
立木数(本)	45	47	56	62
低木層植被率(%)	35	5	40	60
草本層植被率(%)	40	35	30	30
シカ被害レベル	0	1	0	2
低木層種数	2	0	6	13
草本層種数	15	4	18	10
低木層優占種	ホソバタブ	ヤマビワ バリバリノキ	ホソバタブ	ホソバタブ、イスノ キ、イヌガシ
草本層優占種	コバノカナワラビ、バ リバリノキ、ノコギリ	ヤマアイ	コバノカナワラビ	コバノカナワラビ

※平成23年度は方形区にて調査を実施。



高木層では、カシノナガキクイムシによる被害と思われる樹種不明の大径木の枯損等が、3本確認された。低木層はアオキやサザンガなどの小径木が多く、林内の見通しは悪い。草本層は植被率が高く、確認種数も多く豊かに繁茂している。ただし、低木層においてシカの古い被害が確認された。

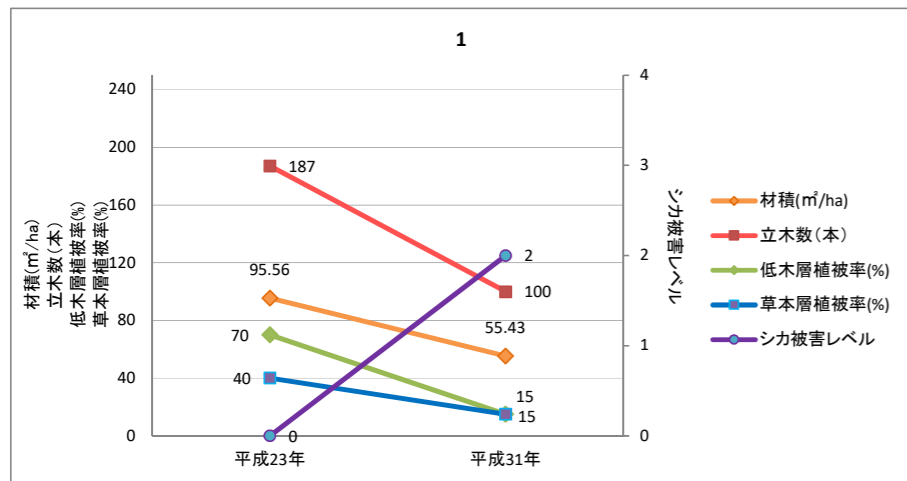
※材積の大幅な減少の一つの要因は、過年度は方形区で調査されていたがマニュアル改訂

高木層では、樹種不明の枯損が確認された他に枯損はなく、健全である。低木層はホソバタブとイヌガシに次いでアオキが優占し、林内の見通しはやや悪い。草本層の植被率は高いが、優占しているのはシカの忌避植物であるイズセンリョウやコバノカナワラビであった。シカの被害は目立たないが、森林の内部構造に変化が生じている可能性がある。

⑮ 蟻尻ツブラジイ等遺伝資源希少個体群保護林

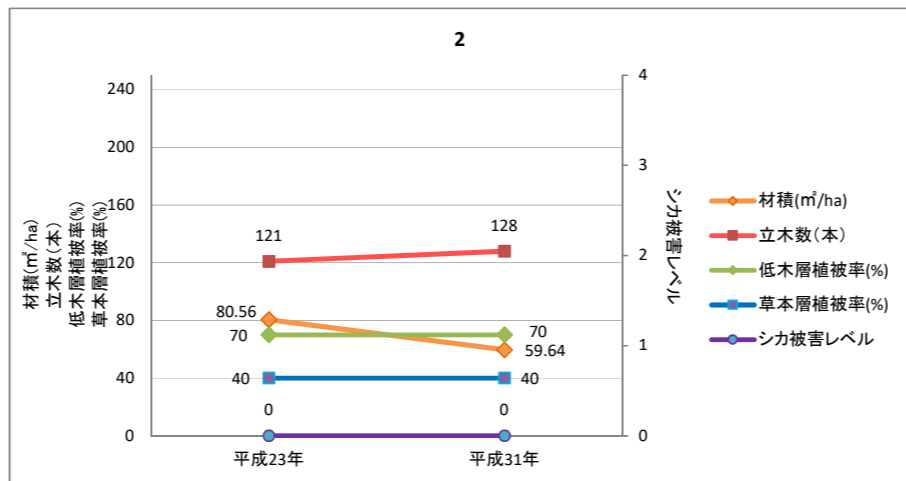
：平成31年度におけるNo.1の植被率は植生調査区(NSEW区)の平均値。平成31年度のNo.2～No.4の植被率は小円部における値。平成23年度における植被率は調査プロット全域(10×50m)における値。

プロットNo.	プロット1		プロット2		プロット3		プロット4	
	(2011年) 平成23年	(2019年) 平成31年	(2011年) 平成23年	(2019年) 平成31年	(2011年) 平成23年	(2019年) 平成31年	(2011年) 平成23年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	95.56	55.43	80.56	59.64	115.77	91.68	63.55	52.13
立木数(本)	187	100	121	128	161	159	132	127
低木層植被率(%)	70	15	70	70	40	70	20	50
草本層植被率(%)	40	15	40	40	10	10	15	5
シカ被害レベル	0	2	0	0	0	3	0	3
低木層種数	13	5	9	10	8	4	5	6
草本層種数	21	13	31	19	8	6	16	15
低木層優占種	イヌノキ、コバンモチ	アオキ、イヌノキ	ヒサカキ、ホソバタブ、ツブラジイ、イス	ツブラジイ	ヒサカキ イヌノキ	ヒサカキ イヌノキ	ヒサカキ	イヌノキ
草本層優占種	イヌノキ	イズセンリョウ イヌノキ	イズセンリョウ、コバノカナワラビ、ツブラジイ、ハナガガシ、カンザブロウノキ	コバノカナワラビ、アリドオシ、イズセンリョウ	イヌガシ	イヌノキ	スタジイ ホソバタブ イヌノキ タブノキ	なし

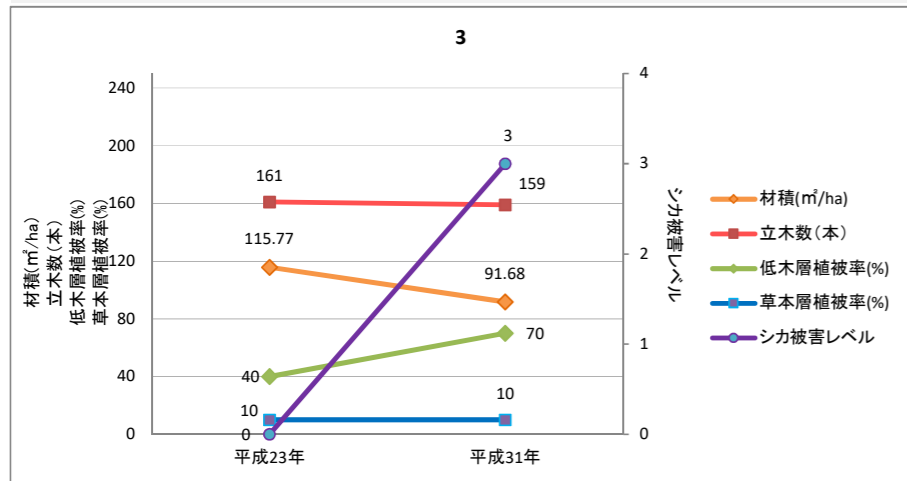


・高木層では、樹種不明の枯損が確認された他に枯損はなく、健全である。低木層はアオキとイヌノキが優占し、林内の見通しはやや悪い。林床が暗いため草本層の植被率は低いが、アオキの生育が確認された。ただし、低木層への新しいシカ被害が確認された。

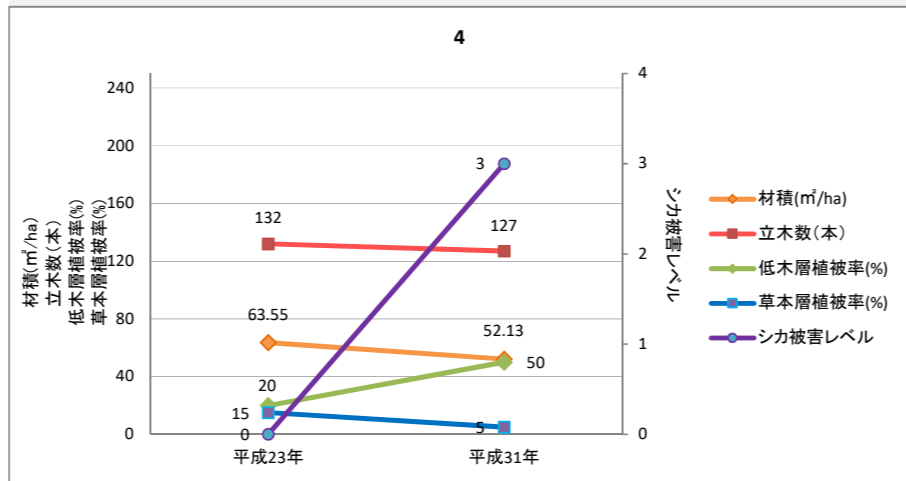
※材積の大幅な減少の一つの要因は、過年度は方形区で調査されていたがマニュアル改訂に伴い今年度は円形で調査したため、調査範囲が一部変わったことが考えられる。



高木層では、ウラジロガシと樹種不明の枯損が確認されたが、老齢による枯損と思われる。健全である。低木層はアオキが優占し、林内の見通しは悪い。草本層はアリドオシやコバノカナワラビが優占するが、アオキも次いで多く確認される他、種多様性も見られる。



・高木層では、スタジイや樹種不明の枯損が7本確認された。新たな枯損は少なく、老齢による枯損と思われるが、やや健全性を欠きつつあることも懸念される。低木層はイヌノキとヒサカキが優占するが、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。

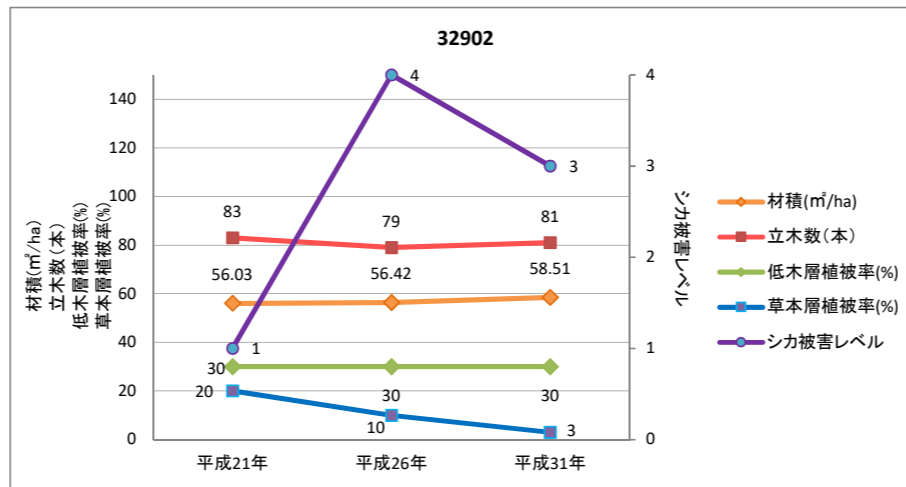
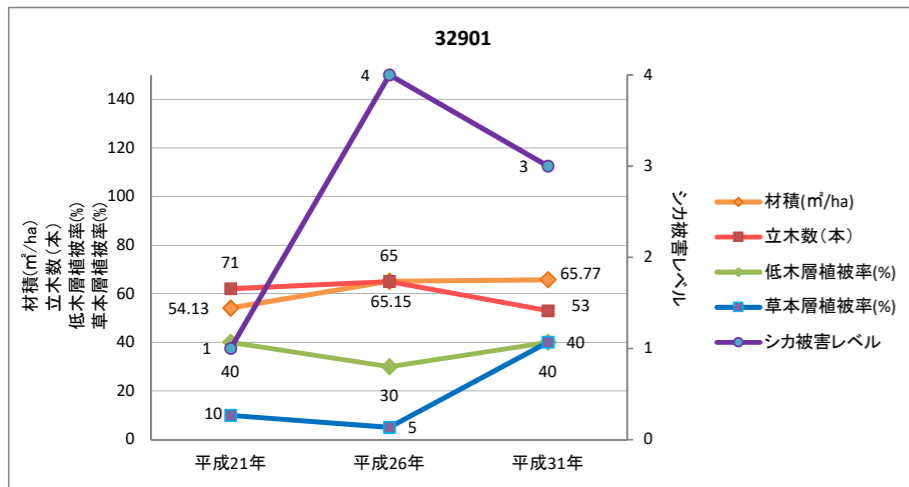


・高木層では、樹種不明の枯損が3本確認された。新たな枯損は少なく、老齢による枯損と思われるが、やや健全性を欠きつつあることも懸念される。低木層はヒサカキとイヌノキが優占するが、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。なお、アオキの優占度が平成23年度より低下した。

⑩川添タブノキ等遺伝資源希少個体群保護林

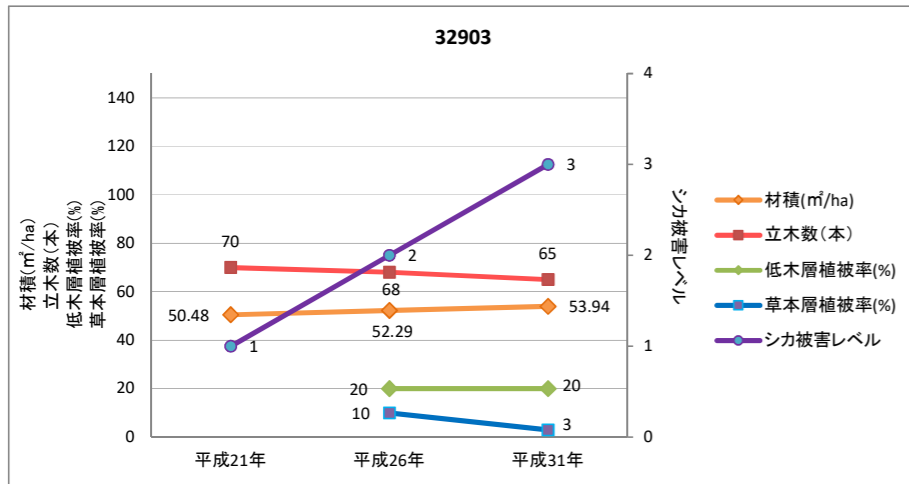
:平成31年度における32901の植被率は植生調査区(NSEW区)の平均値。平成21年度、平成26年度、平成31年度の32902及び32903の植被率は小円部における値。

プロットNo.	32901			32902			32903		
	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	54.13	65.15	65.77	56.03	56.42	58.51	50.48	52.29	53.94
立木数(本)	62	65	53	83	79	81	70	68	65
低木層植被率(%)	40	30	40	30	30	30	20	20	20
草本層植被率(%)	10	5	40	20	10	3	10	3	3
シカ被害レベル	1	4	3	1	4	3	1	2	3
低木層種数	10	6	6	9	6	8	10	6	9
草本層種数	9	3	9	9	3	5	14	14	10
低木層優占種	なし	サザンカ イヌガシ	サザンカ イヌガシ		ヤブツバキ	イヌガシ	なし	イスノキ ホソバタブ ヤブツバキ シロダモ	ヤブニッケイ、シキ ミ、サザンカ、イヌガ シ、シロダモ、イズセ ンリョウ、イスノキ、 バリバリノキ
草本層優占種	イヌガシ シキミ サザンカ イスノキ	イヌガシ	ホソバタブ タブノキ	イヌガシ	ハイノキ	イヌガシ	なし	イズセンリョウ	イズセンリョウ シキミ



・高木層では、樹種不明の枯損が確認された他に枯損はなく、健全である。低木層はサザンカやイヌガシなどの小径木が多いが、林内の見通しはよい。草本層の植被率は高く、ホソバタブやタブノキなどが生育する。

高木層に枯損や倒伏はなく、健全である。低木層の立木はほとんどなく、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。低木層及び草本層は、シカの忌避植物であるイヌガシが優占する。

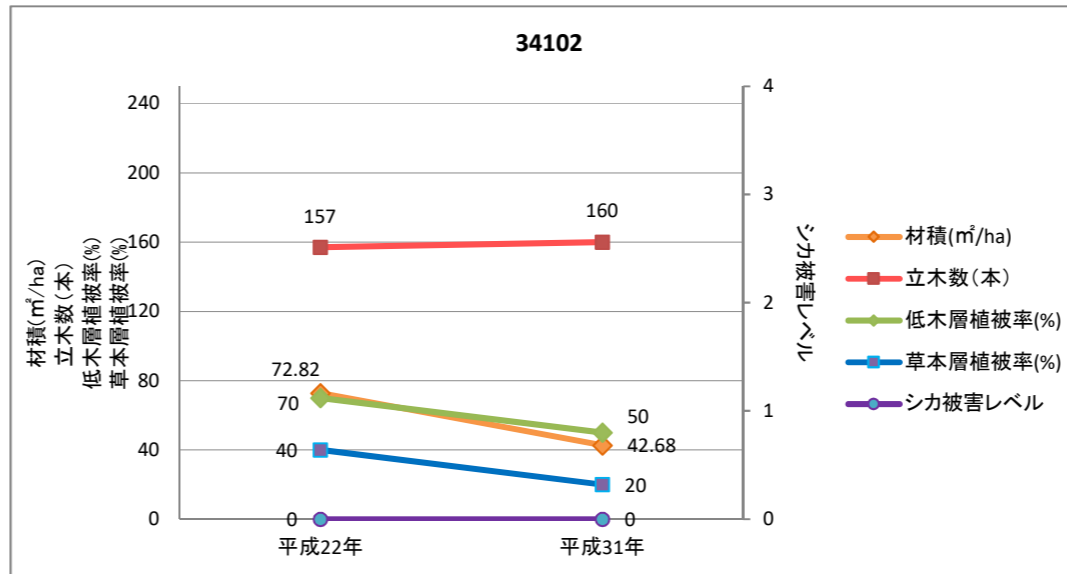
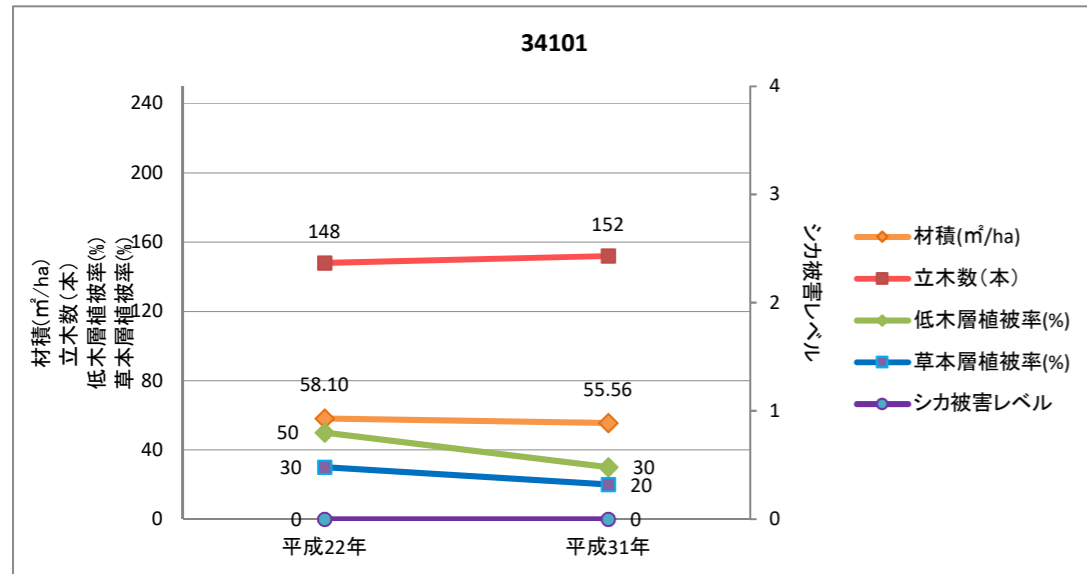


高木層に枯損や倒伏はなく、健全である。低木層はイヌガシが優占し、林内の見通しはよい。草本層はイズセンリョウが優占するが植被率は低く、貧弱である。

⑪面縄リュウキュウマツ遺伝資源希少個体群保護林

※平成22年度及び平成31年度の植被率は小円部における値。

プロットNo.	34101		34102	
	(2010年) 平成22年	(2019年) 平成31年	(2010年) 平成22年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	58.10	55.56	72.82	42.68
立木数(本)	148	152	157	160
低木層植被率(%)	50	30	70	50
草本層植被率(%)	30	20	40	20
シカ被害レベル	-	0	-	0
低木層種数	12	12	13	9
草本層種数	28	10	19	19
低木層優占種	シロミミズ カクレミノ	シロミミズ、ポチョウ ジ、スタジイ、ミミズ バイ、ヤマヒハツ、サ ザンカ、モクタチバナ	ポチョウジ	ポチョウジ
草本層優占種	スタジイ、ヤマヒマ ツ、ポチョウジ、シラタ マカズラ、シロミミズ	コパンモチ、スタジ イ、シラタマカズラ、イ ヌガシ	ケハダルリミノキ	ケハダルリミノキ、ア オノクマタケラン、セ ンリョウ、ポチョウジ、 アマシバ



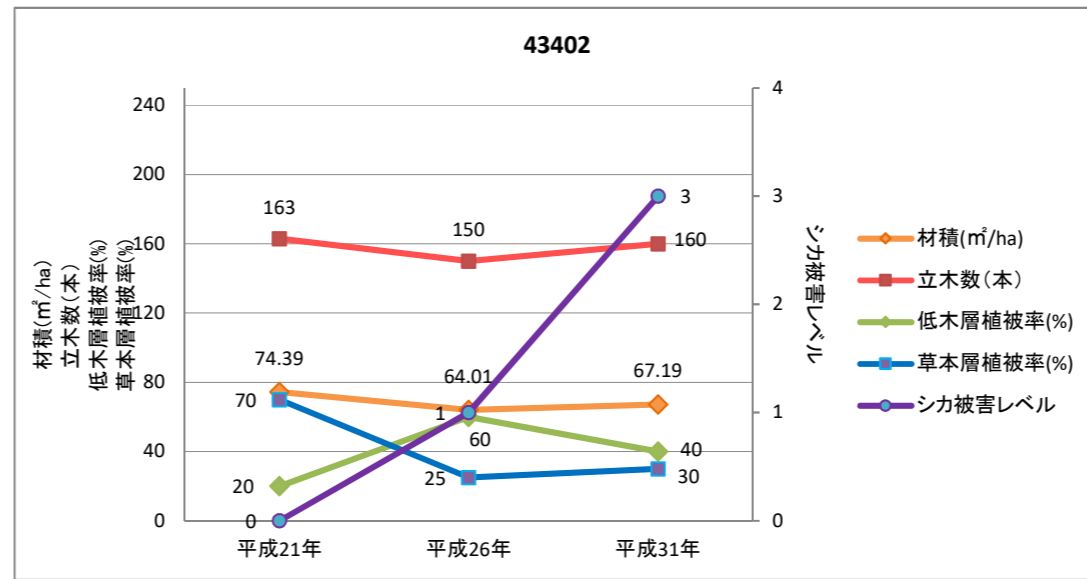
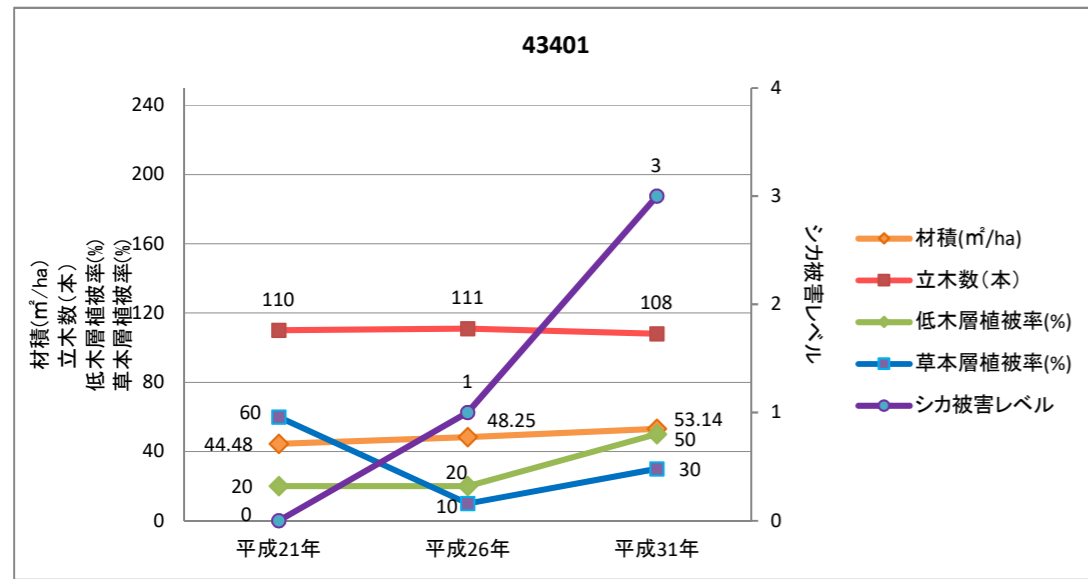
高木層では、マツ枯れ被害によりプロット内に生育するほぼ全てのリュウキュウマツに枯損が確認され、甚大な被害が生じている。低木層はスタジイやシロミミズなどの小径木が繁茂し、林内の見通しは非常に悪い。草本層は植被率が高く、スタジイやコパンモチなどが豊かに繁茂している。徳之島にはシカが生息していないことから、シカ被害は生じていない。

・高木層では、マツ枯れ被害によりプロット内に生育するほぼ全てのリュウキュウマツに枯損が確認され、甚大な被害が生じている。低木層はポチョウジ(別名リュウキュウアオキ)やモクタチバナなどの小径木が繁茂し、林内の見通しは非常に悪い。草本層は植被率が高く、ヨゴレイタチシダやアオノクマタケランなどが豊かに繁茂している。徳之島にはシカが生息していないことから、シカ被害は生じていない。

⑩種子島ヤクタネゴヨウ等希少個体群保護林

※平成21年度、平成26年度、平成31年度の植被率は小円部における値。

プロットNo.	43401			43402		
	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	44.48	48.25	53.14	74.39	64.01	67.19
立木数(本)	110	111	108	163	150	160
低木層植被率(%)	20	20	50	20	60	40
草本層植被率(%)	60	10	30	70	25	30
シカ被害レベル	0	1	3	0	1	3
低木層種数	12	8	8	19	12	10
草本層種数	18	24	20	25	21	14
低木層優占種	タイミンタチバナ	イスノキ サクラツツジ	イスノキ サクラツツジ タイミンタチバナ	サクラツツジ	タイミンタチバナ	タイミンタチバナ
草本層優占種	アリドオシ	ヨゴレイタチシダ	ヨゴレイタチシダ ヤマビワ	タイミンタチバナ	ヨゴレイタチシダ タイミンタチバナ	イズセンリョウ タイミンタチバナ アリドオシ ヨゴレイタチシダ



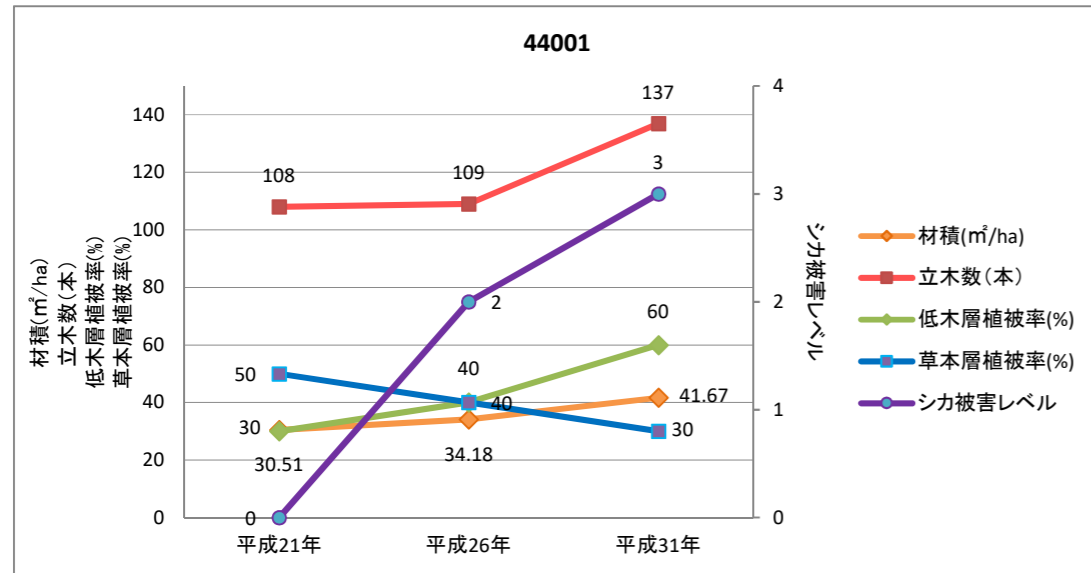
・高木層では、平成26年度調査時すでに枯損していたと思われるマテバシイや樹種不明の枯損が5本確認された。新たな枯損はないが、やや健全性を欠きつつあることも懸念される。なお、ヤクタネゴヨウの枯損は確認されなかった。低木層はイスノキやタイミンタチバナなどの小径木が多いが、林内の見通しはよい。草本層の植被率は高く種数も多いが、生育している個体は小さくシカの忌避植物への偏りが見られた。

・高木層では、平成26年度調査時すでに枯損していたと思われるスダジイや樹種不明の枯損が確認された。新たな枯損はないが、やや健全性を欠きつつあることも懸念される。なお、ヤクタネゴヨウの枯損は確認されなかった。低木層はイスノキやタイミンタチバナなどの小径木が優占し、林内の見通しは悪い。草本層の植被率は高く種数も多いが、生育している個体は小さくシカの忌避植物への偏りが見られた。

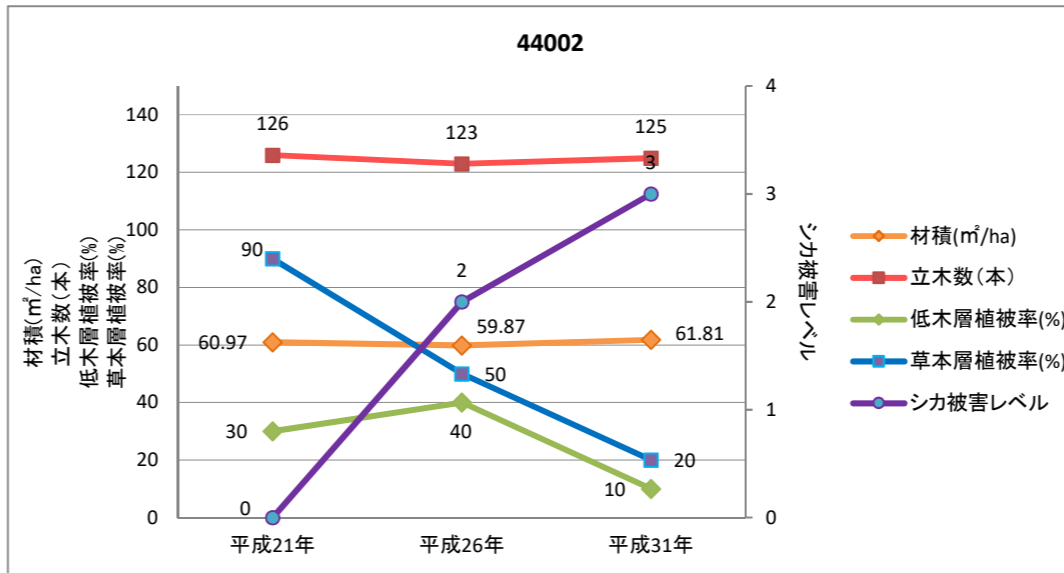
⑱早稲田川ヤクタネゴヨウ希少個体群保護林

※平成21年度、平成26年度、平成31年度の植被率は小円部における値。

プロットNo.	44001			44002		
	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年	(2009年) 平成21年	(2014年) 平成26年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	30.51	34.18	41.67	60.97	59.87	61.81
立木数(本)	108	109	137	126	123	125
低木層植被率(%)	30	40	60	30	40	10
草本層植被率(%)	50	40	30	90	50	20
シカ被害レベル	0	2	3	0	2	3
低木層種数	5	5	7	9	11	4
草本層種数	14	13	10	11	17	9
低木層優占種	サクラツツジ	サクラツツジ タイミンタチバナ	サクラツツジ	イズセンリョウ	イスノキ	ヤブツバキ イズセンリョウ
草本層優占種	コシダ	コシダ	コシダ	イズセンリョウ	イズセンリョウ	イズセンリョウ



・高木層では、スダジイの枯損が確認された他に枯損はなく、健全である。低木層はサクラツツジやタイミンタチバナなどの小径木が多いが、林内の見通しはよい。ギャップが生じており、草本層はコシダやヨゴレイタチシダが被度高く生育している。



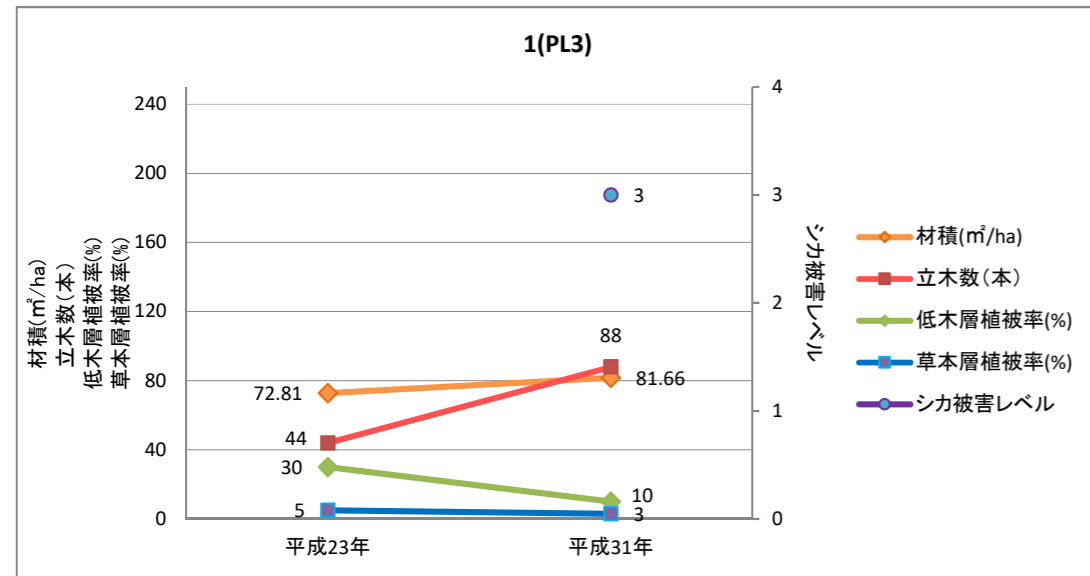
・高木層ではスギの枯損が確認された他、カシノナガキクイムシによる病虫害がマテバシイ3本に確認された。低木層はヤブツバキやミズバイが優占するが、林内の見通しはよい。草本層はシカの忌避植物であるアリドオシやイズセンリョウが被度高く生育している。

㊦瀬切川ヤクタネゴヨウ希少個体群保護林

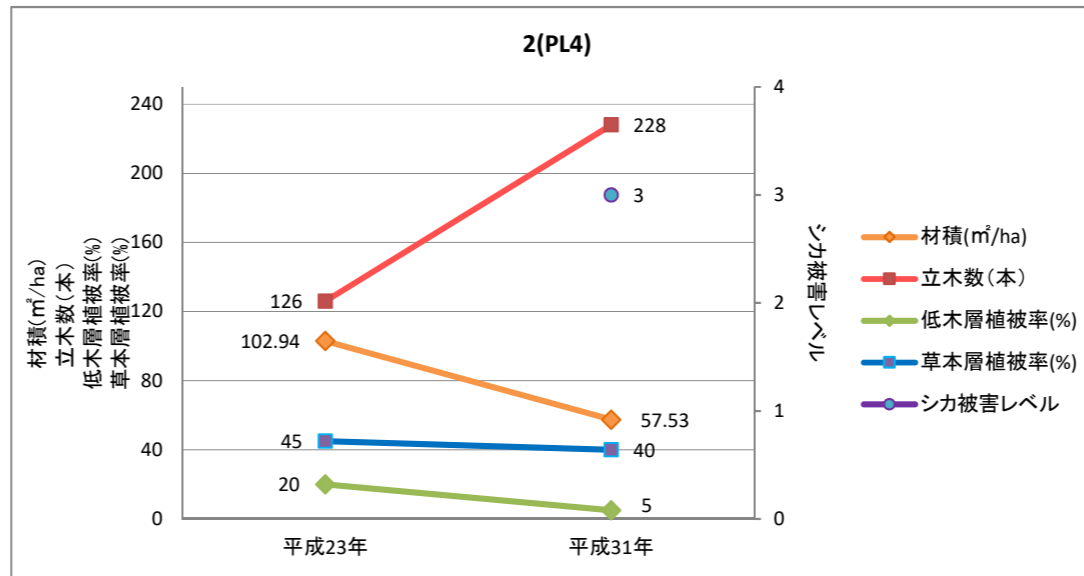
※平成31年度の植被率は小円部における値。平成23年度における植被率は調査プロット全域(10×10m)における値。

プロットNo.	No.1(PL3)		No.2(PL4)	
	(2011年)※ 平成23年	(2019年) 平成31年	(2011年)※ 平成23年	(2019年) 平成31年
材積(m ³ /ha)	72.81	81.66	102.94	57.53
立木数(本)	44	88	126	228
低木層植被率(%)	30	10	20	5
草本層植被率(%)	5	3	45	40
シカ被害レベル		3		3
低木層種数	7	4	5	7
草本層種数	25	9	25	13
低木層優占種	タイミンタチバナ	ミミズバイ ヒサカキ タイミンタチバナ サクラツツジ	サクラツツジ	アデク、タイミンタチバナ、イスノキ、シキミ、ヒサカキ、サクラツツジ
草本層優占種	ヨゴレイタチシダ	センリョウ ヨゴレイタチシダ アリドオシ	アデク	アデク

※平成23年度は方形区にて調査を実施。



・高木層では、スダジイの枯損や樹種不明の枯損が確認された他に枯損はなく、健全である。低木層はヒサカキやタイミンタチバナなどが優占するが、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



・高木層では、スダジイや樹種不明の枯損が4本確認された。新たな枯損はないが、やや健全性を欠きつつあることも懸念される。プロット内のヤクタネゴヨウには薬剤樹幹注入がされている。低木層はサクラツツジやイヌガシなどが生育するが、林内の見通しは非常によい。草本層の植被率は高いが、シカの忌避植物であるアデクが優占する。